

1. 資料

3) 地図 ②



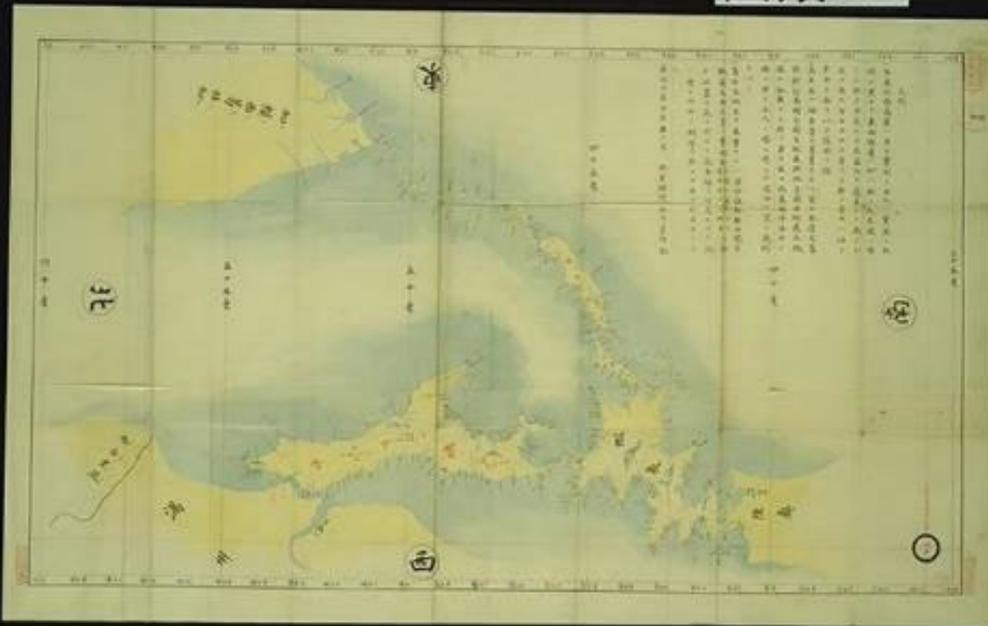
b-6_00389

資料名	松前藩士木村源吉旧蔵蝦夷全図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00389
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	函館市中央図書館デジタル資料館
資料の寸法 cm	129(H)×59(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	函館中央図書館より画像データを申請のうえ取得(K08キム5062) 安政3年(1856)の写しであるが、カラフト島の図形は間宮林蔵の文化6年(1809)当時の図形である。写図・無彩。 江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



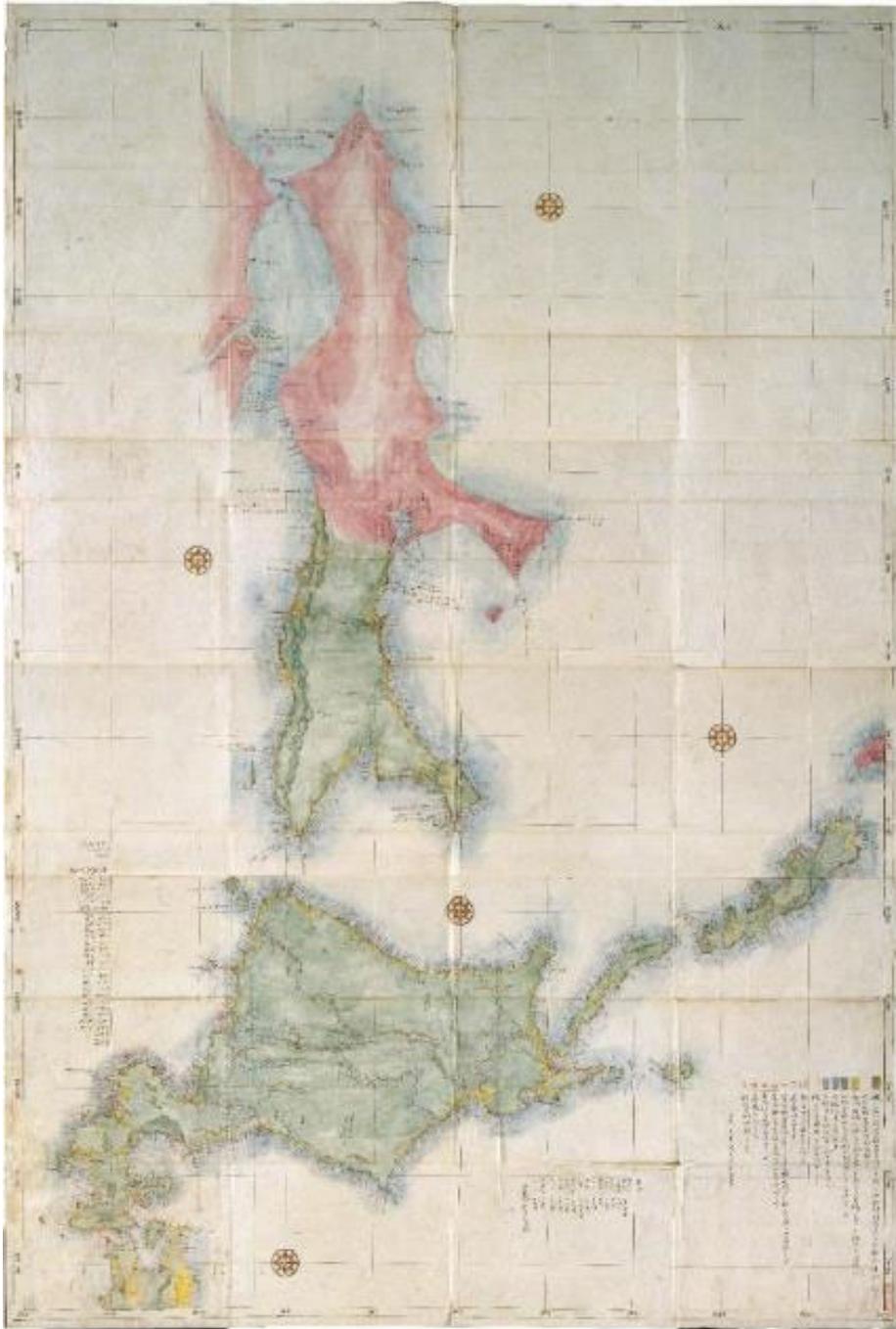
資料名	蝦夷諸島里程図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00476
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	78(H)×55(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得（図類1118） https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D01988000000000 カラフト島と千島列島を中心に描く図である。千島列島の島々にはアイヌ語地名とロシア語地名の両方で記載し、各島間の距離も載っている。天保15年(1844)の写しである。写図・着彩。 江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。

図類611



b-6_00447

資料名	蝦夷全図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00447
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	103(H)×64(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得(図類611) https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D00170000000000 渋川景佑は現大阪市出身の天文方である。嘉永7年(1854)の作成であるが、凡例によると多くの資料を参照したとある割には図形が整っていない。写図・着彩。 江戸後期 (1821-1868) 文政4年 (1821)、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



b-6_00390

資料名	正徳蝦夷図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00390
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	函館市中央図書館デジタル資料館
資料の寸法 cm	137(H)×93(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	函館中央図書館より画像データを申請のうえ 取得(K29010シヨ4003)

松浦武四郎は現三重県松阪市出身の北方探検家である。弘化2年(1845)から6度にわたって蝦夷地を中心に実地調査を続け、多くの著作・地図を著わした。嘉永7年(1854)に作成したのが『三航蝦夷全図』(全14枚組)である。カラフト島北部はまだ形をなしておらず、蝦夷地はやや扁平であるが、地名は詳細である。本図は原図を4分の1に縮小したものである。写図・着彩。

江戸後期 (1821-1868)

文政4年(1821)、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



b-6_00376

資料名 蝦夷諸島接壤全図 一(画像データ)

資料整理番号 b-6_00376

地域情報 国後島、色丹島、歯舞群島
備考：

作成・発行時期 江戸後期

寄贈者/入手元 函館市中央図書館デジタル資料館

資料の寸法 cm 146(H)×113(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 函館中央図書館より画像データを申請のうえ
取得 (K29010Iソ6001)

沖正藏は現三重県鈴鹿市出身の伊勢染型紙を販売する傍ら、国学・儒学・海防・和歌など多くを学んだ人物である。本図は安政3年(1856)に作成された自筆図で、蝦夷地・カラフト島・千島列島の美しい3枚である。写図・着彩。

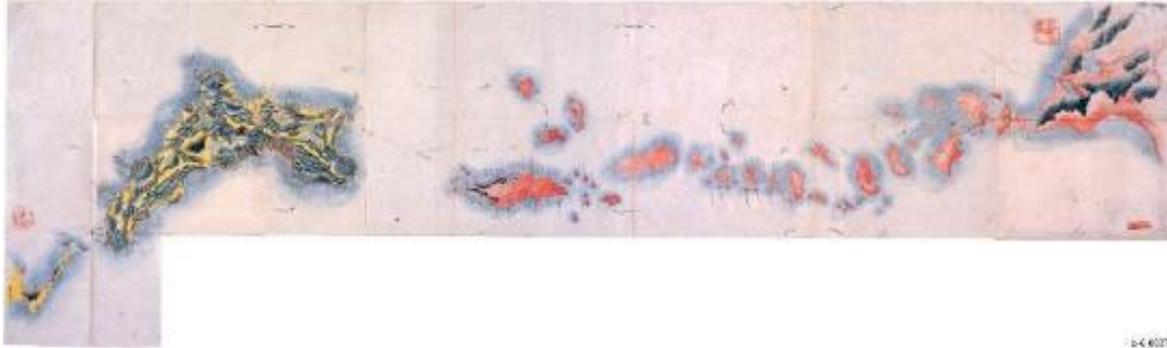
江戸後期 (1821-1868)

文政4年(1821)、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



b-6_00377

資料名	蝦夷諸島接壤全図 二(画像データ)
資料整理番号	b-6_00377
地域情報	その他 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	函館市中央図書館デジタル資料館
資料の寸法 cm	113(H)×89(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	函館中央図書館より画像データを申請のうえ取得 (K29010Eソ6001) 沖正藏は現三重県鈴鹿市出身の伊勢染型紙を販売する傍ら、国学・儒学・海防・和歌など多くを学んだ人物である。本図は安政3年(1856)に作成された自筆図で、蝦夷地・カラフト島・千島列島の美しい3枚である。写図・着色。 江戸後期 (1821-1868) 文政4年 (1821)、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



資料名 蝦夷諸島接壤全図 三(画像データ)

資料整理番号 b-6_00378

地域情報 択捉島、国後島
備考：

作成・発行時期 江戸後期

寄贈者/入手元 函館市中央図書館デジタル資料館

資料の寸法 cm 189(H)×56(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 函館中央図書館より画像データを申請のうえ
取得 (K29010Eソ6001)

沖正藏は現三重県鈴鹿市出身の伊勢染型紙を販売する傍ら、国学・儒学・海防・和歌など多くを学んだ人物である。本図は安政3年(1856)に作成された自筆図で、蝦夷地・カラフト島・千島列島の美しい3枚である。写図・着彩。

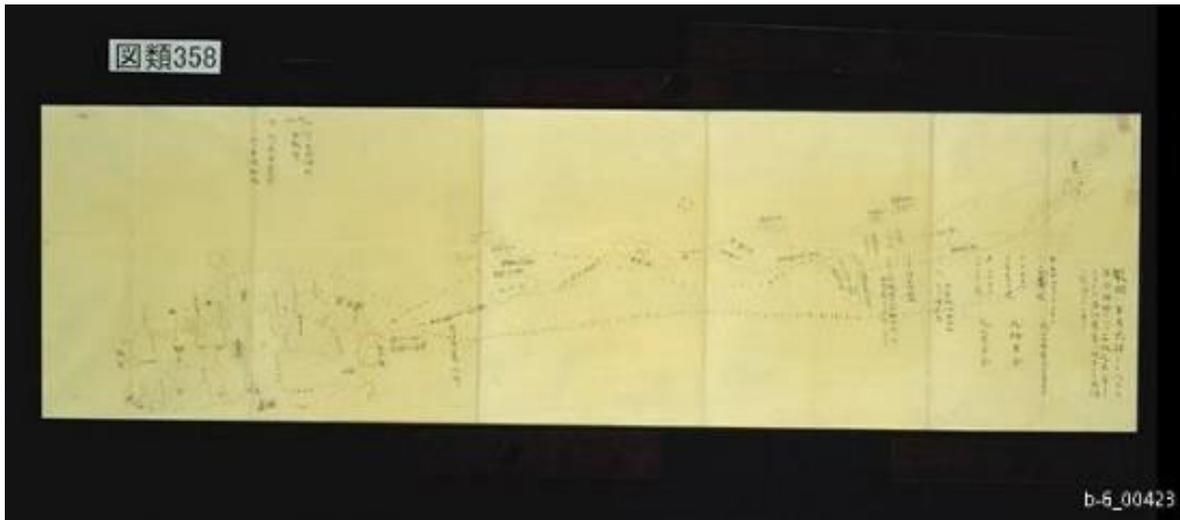
江戸後期 (1821-1868)

文政4年(1821)、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



b-6_00404

資料名	北海道国郡全図(上)(画像データ)
資料整理番号	b-6_00404
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	156(H)×179(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得(図類452(1)) https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D002210000000002</p> <p>目賀田守蔭は江戸出身で谷文晁から絵画を学び、幕府に勤めた人物である。安政3年(1856)から3年間、蝦夷地を実地調査し、多くの地図を作成した。本図は明治4年(1871)に開拓使の命によって作成された自筆図である。樺太図と対になっている。写図・着彩。</p> <p>江戸後期(1821-1868) 文政4年(1821)、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。</p>



資料名	自ネモロ至シコタン島之図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00423
地域情報	色丹島、歯舞群島その他 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	39(H)×135(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得（図類358） https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D01996000000000</p> <p>幕末の作成と思われる。ネモロ(現根室市)よりハボマイ群島、シコタン島に至る航路図である。写図・着彩。</p> <p>江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。</p>



b-6_00395

資料名	国後島泊之図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00395
地域情報	国後島 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	函館市中央図書館デジタル資料館
資料の寸法 cm	84(H)×120(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会

備考 函館中央図書館より画像データを申請のうえ取得 (K29010クナ6001)

安政2年(1855)以降、幕命によるクナシリ島トマリでの仙台藩と南部藩との警備図である。湾を大きく描き、御会所・仙台居小屋・南部居小屋・石火矢台・弁天宮などが描かれている。写図・着彩。

江戸後期 (1821-1868)
文政4年(1821)、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



b-6_00534

資料名	仙台藩東蝦夷地経営図 クナシリ内フルカマフ (画像データ)
資料整理番号	b-6_00534
地域情報	国後島 備考：泊村古釜布
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	函館市中央図書館デジタル資料館
資料の寸法 cm	79(H)×69(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	函館中央図書館より画像データを申請のうえ 取得(K29010セン5001)
解説	安政期に仙台藩が警備を命じられたクナシリ島フルカマフでの警備状態を描いている。会所・蝦夷屋のほか、箱館よりの里程を記す。絵画風の描写である。写図・着彩。

江戸後期（1821-1868）

文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



b-6_00533

資料名	仙台藩東蝦夷地経営図 クナシリ内トマリ (画像データ)
資料整理番号	b-6_00533
地域情報	国後島 備考：泊村泊
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	函館市中央図書館デジタル資料館
資料の寸法 cm	79(H)×69(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	函館中央図書館より画像データを申請のうえ 取得(K29010セン5001) 安政期の仙台藩の警備地図である。クナシリ島 トマリのケラムイ岬の湾内に出張陣屋・勤番屋・ 会所・蝦夷屋などがあり、絵画風に描いている。 写図・着彩。 江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦 夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経 営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性 をもって数多く作成され、また、それまで少なか った木版図も数多く出版されていく時期である。



資料名	東蝦夷御場所絵図 13 クナシリ嶋之図 (画像データ)
資料整理番号	b-6_00392
地域情報	国後島 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	函館市中央図書館デジタル資料館
資料の寸法 cm	30(H)×40(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>函館中央図書館より画像データを申請のうえ取得 (K29010ヒカ6013)</p> <p>東蝦夷地(太平洋岸)の全14枚の1枚である。「場所」とは、蝦夷地沿岸の一地域を松前藩の重臣に与えた漁業区域の事である。産物と地名・里程が載る。写図・着彩。</p> <p>江戸後期 (1821-1868) 文政4年 (1821)、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。</p>



b-6_00393

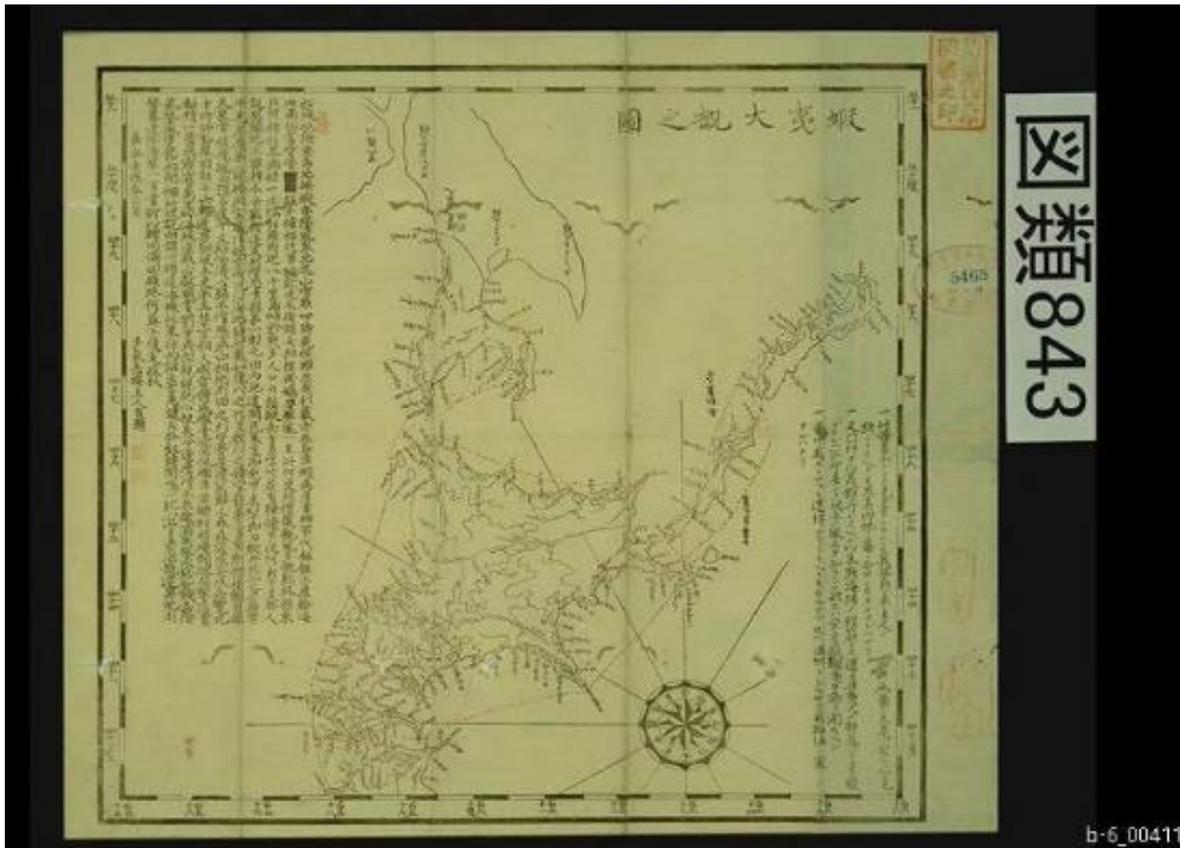
資料名	東蝦夷御場所絵図 14 エトロフ場所(画像データ)
資料整理番号	b-6_00393
地域情報	択捉島 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	函館市中央図書館デジタル資料館
資料の寸法 cm	44(H)×100(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会

備考
函館中央図書館より画像データを申請のうえ
取得(K29010ヒカ6014)

東蝦夷地(太平洋岸)の全14枚の1枚である。
「場所」とは、蝦夷地沿岸の一地域を松前藩の
重臣に与えた漁業区域の事である。産物と詳
細な里程が掲載される。写図・着彩。

江戸後期 (1821-1868)

文政4年(1821)、幕府の直轄地であった蝦
夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経
営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性
をもって数多く作成され、また、それまで少なか
った木版図も数多く出版されていく時期である。

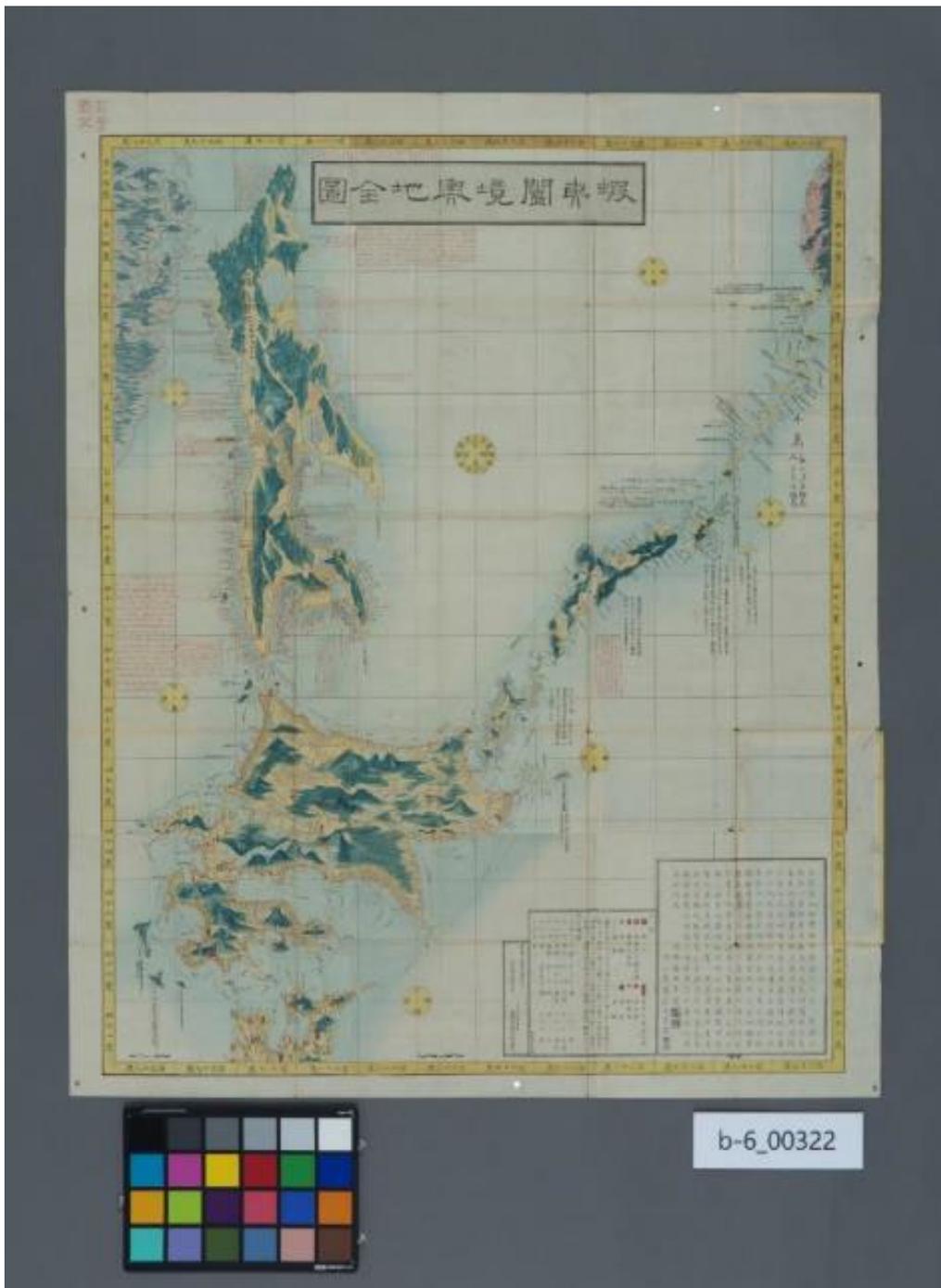


資料名	蝦夷大概之図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00411
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1850年／嘉永3年／江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	32(H)×38(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得（図類843） https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D001570000000000 現三重県松阪市出身の松浦武四郎は、前後6度にわたって蝦夷地、カラフト島、クナシリ島、イトロフ島を調査した。その過程で、嘉永3年(1850)に出版したものである。小図であるが蝦夷地の図形は整っている。左上部に掲載する漢詩は、松前藩政を批判したものである。表題は『蝦夷大概図』である。木版・墨刷。 江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



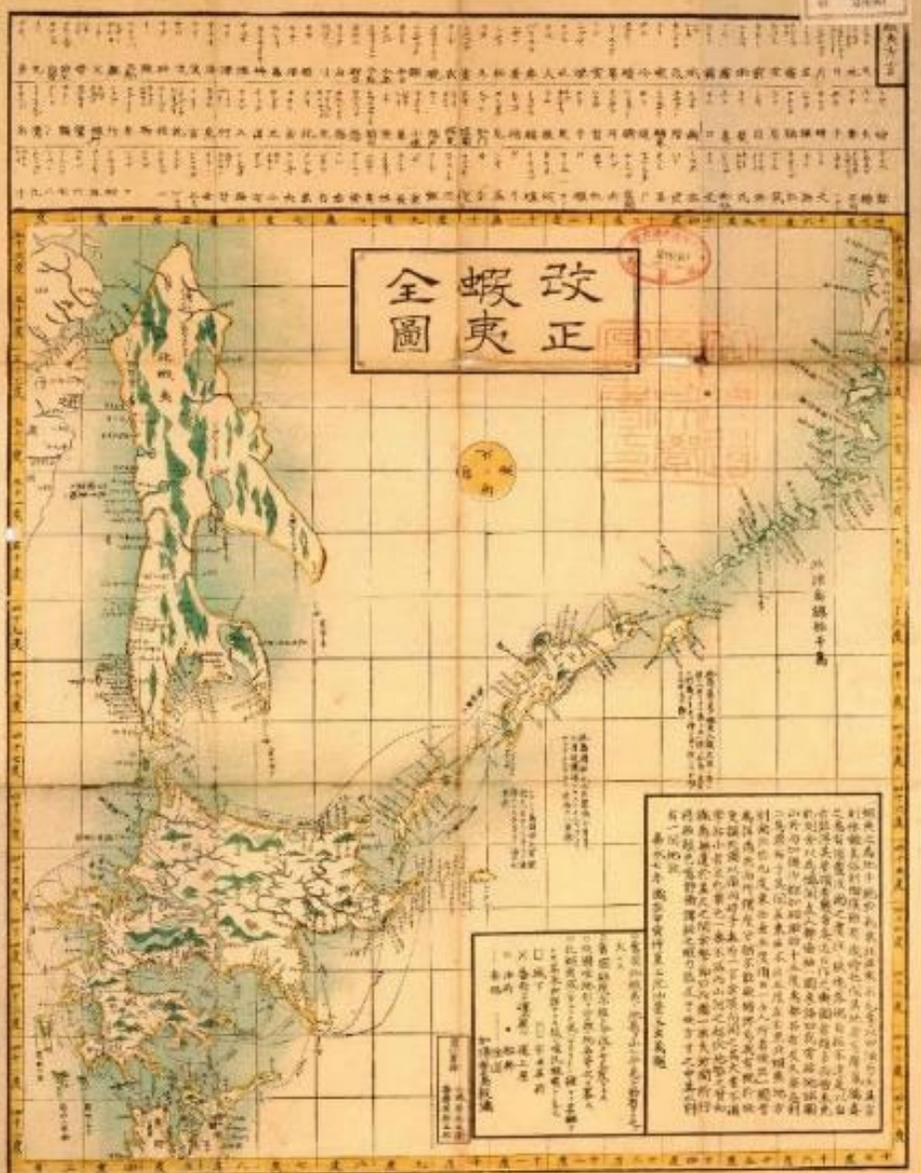
b-6_00412

資料名	満州魯西亜疆界図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00412
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	68(H)×45(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得（図類664） https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D001590000000000</p> <p>ペリー来航、箱館開港、蝦夷地の再直轄など蝦夷地が大きく注目された嘉永6年(1853)以降、民間から矢継ぎ早に蝦夷地の図が出版され始めた。本図はその最初に出版された図である。幕末になってからの出版でありながら、カラフト島はいまだに半島のままである。こうしたことは民間での出版図によく見られたことである。木版・色刷。</p> <p>江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。</p>



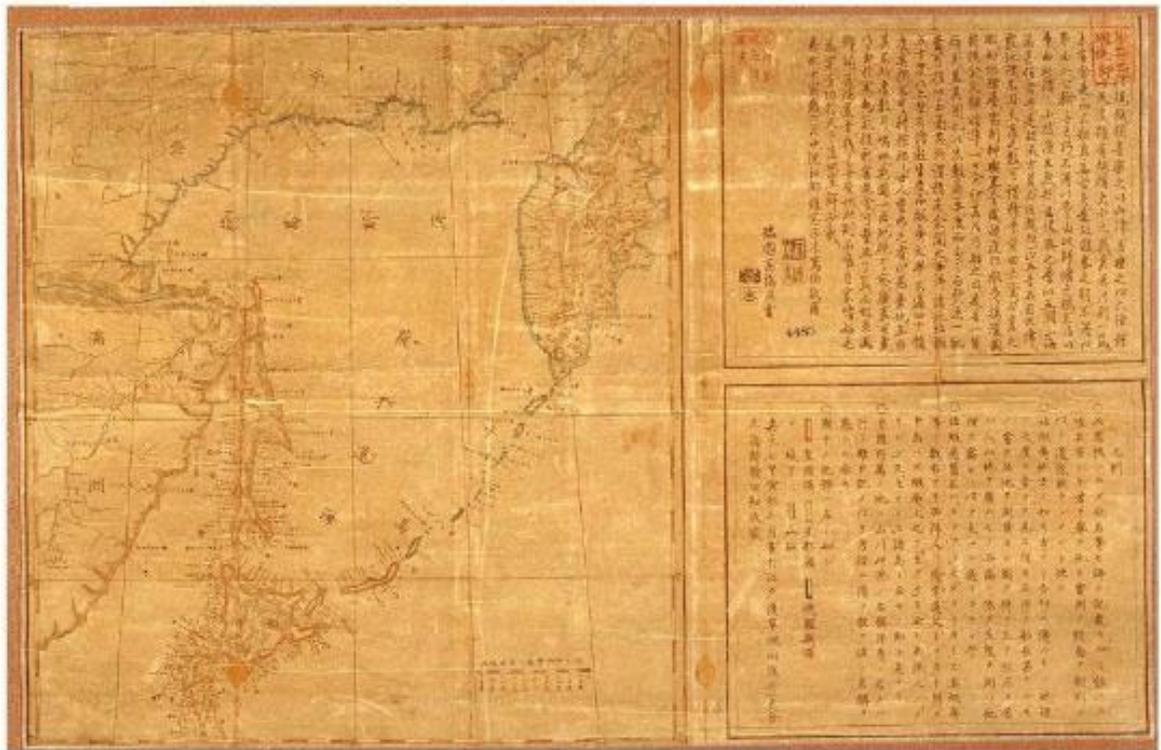
資料名	蝦夷地境輿地全圖
資料整理番号	b-6_00322
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1854年／嘉永7年／江戸後期
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	124(H)×100(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>嘉永7年(1854)に出版された図で、この時期を代表する蝦夷図である。大型で美しいこの図は、藤田惇齋の著作であるが、当時、横浜浮世絵師として知られた橋本玉蘭齋貞秀の描いたものである。「方言訳畧」としてアイヌ語の単語を載せている。木版・色刷。</p> <p>江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。</p>

図類607(2)



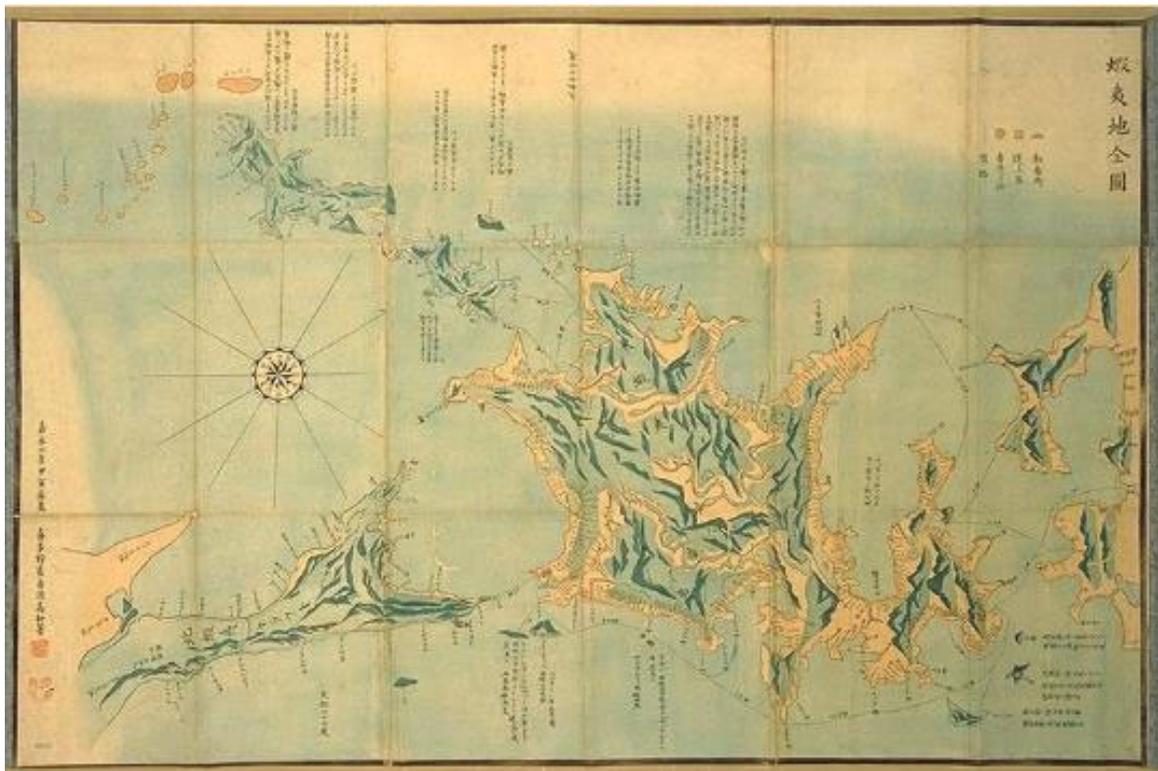
b-6_00443

資料名	改正蝦夷全図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00443
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1854年／嘉永7年／江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	58(H)×45(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得（図類607(2)） https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D0016300000000000 嘉永7年(1854)に加賀(現石川県金沢市)藩士・豊島洞齋が著わした図で、仙台(現宮城県仙台市)藩士・玉虫左太夫の識語をもつ。「蝦夷方言」と題したアイヌ語の単語を載せている。木版・色刷。 江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



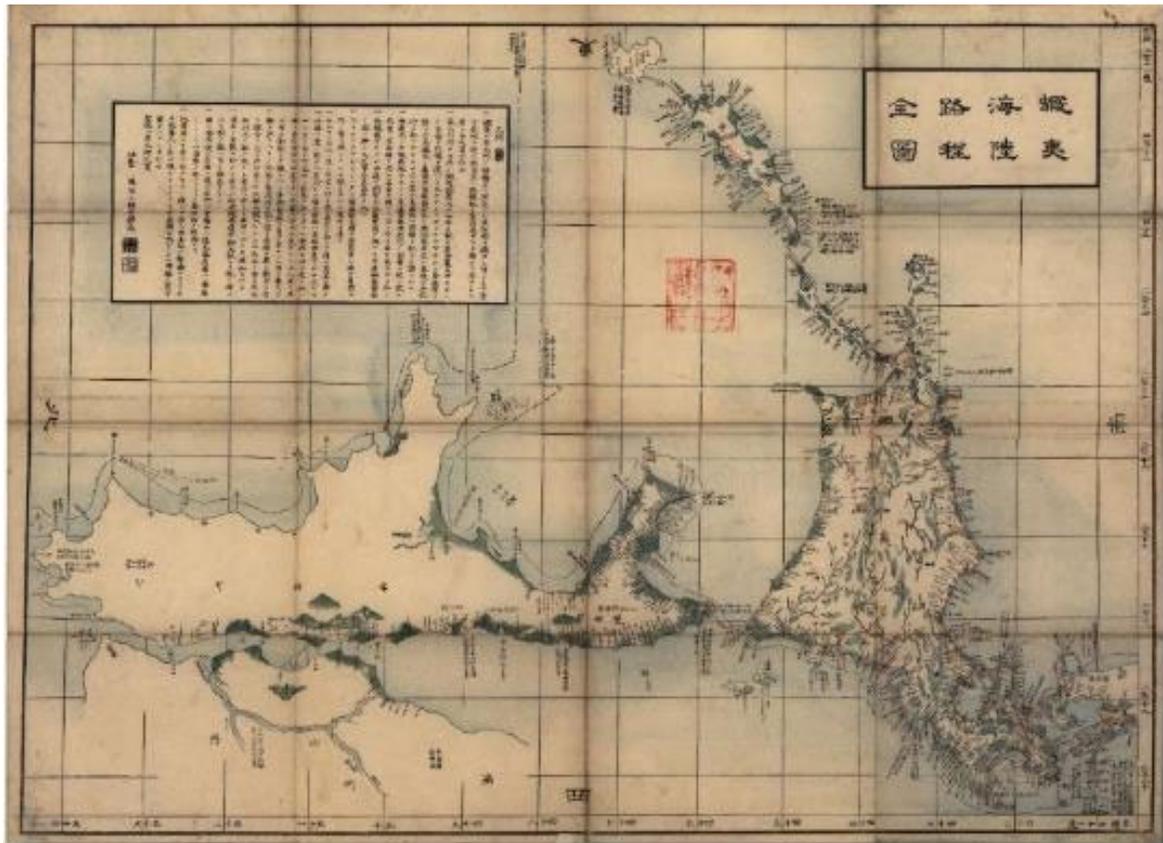
b-6_00444

資料名	蝦夷接壤全図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00444
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1854年／嘉永7年／江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	37(H)×58(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得（軸物109） https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D00165000000000 現新潟県佐渡市出身の新発田収蔵によって嘉永7年(1854)に出版された図である。新発田は当時、幕府の天文方雇の身分であり、ドイツ製の地図を和訳して作成したものである。木版・色刷。 江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



b-6_00445

資料名	蝦夷地全図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00445
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1854年／嘉永7年／江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	73(H)×108(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得(軸物87) https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D00168000000000 嘉永7年(1854)、幕府の役人で、蝦夷地の各地で勤務していた喜多野省吾によって作成・出版された図である。木版・色刷。 江戸後期 (1821-1868) 文政4年 (1821)、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



資料名 蝦夷海陸路程全図(画像データ)

資料整理番号 b-6_00373

地域情報 全島
備考：

作成・発行時期 江戸後期

寄贈者/入手元 函館市中央図書館デジタル資料館

資料の寸法 cm 64(H)×90(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 函館中央図書館より画像データを申請のうえ
取得(K08オノ4001)

嘉永7年(1854)に仙台(現宮城県仙台市)藩士・小野寺鳳谷が作成・出版した図である。凡例によると、幕命により蝦夷地へ警備のために赴く仙台藩士のために作成したものという。木版・色刷。

江戸後期 (1821-1868)

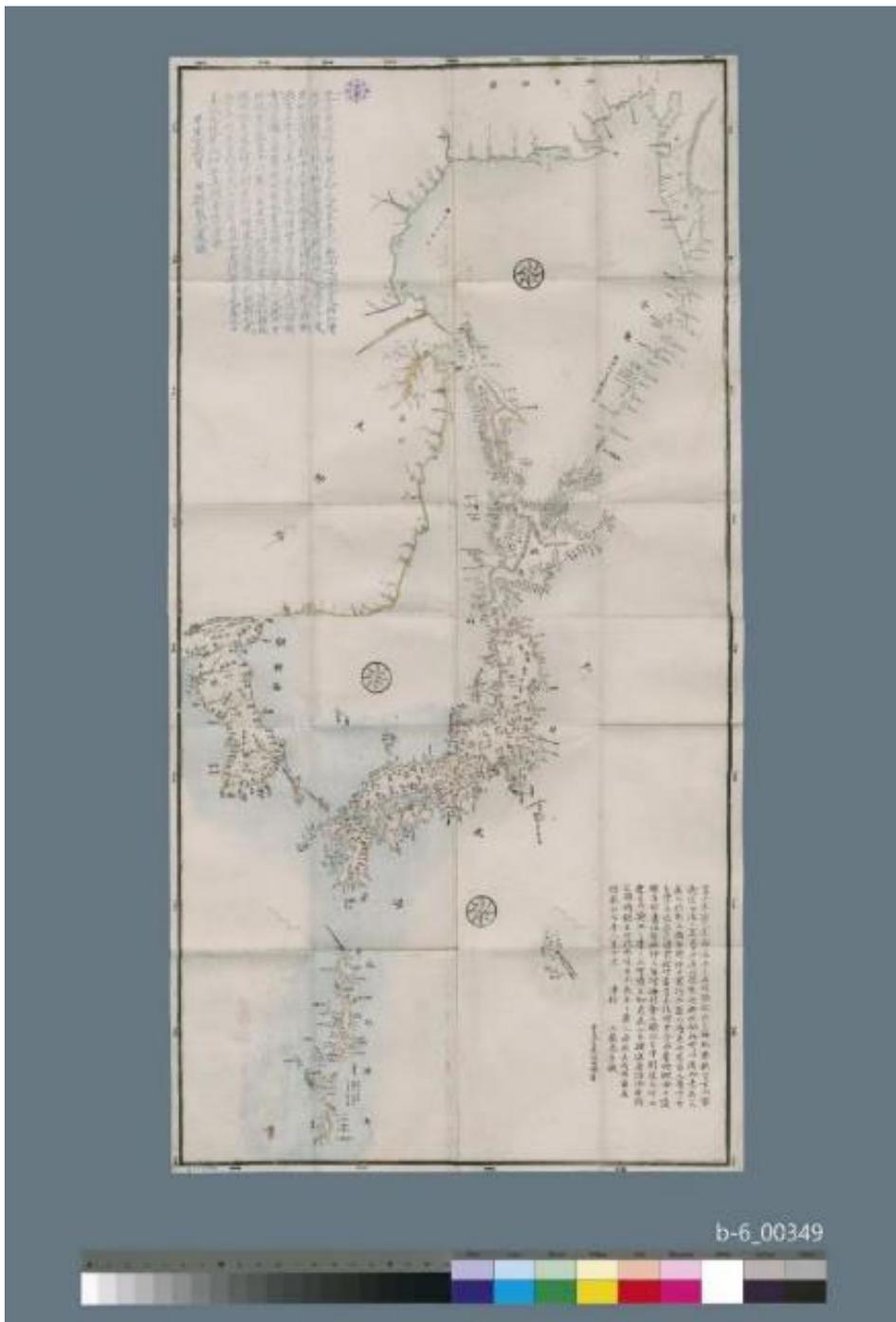
文政4年(1821)、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。

図類605



b-6_00446

資料名	蝦夷地理之図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00446
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1854年／嘉永7年／江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	35(H)×47(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得（図類605） https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D00169000000000 嘉永7年(1854)、結城甘泉が出版した蝦夷図であるが、図形は60年以前の地図を採用している。これも当時の民間出版に見られた現象である。木版・色刷。 江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



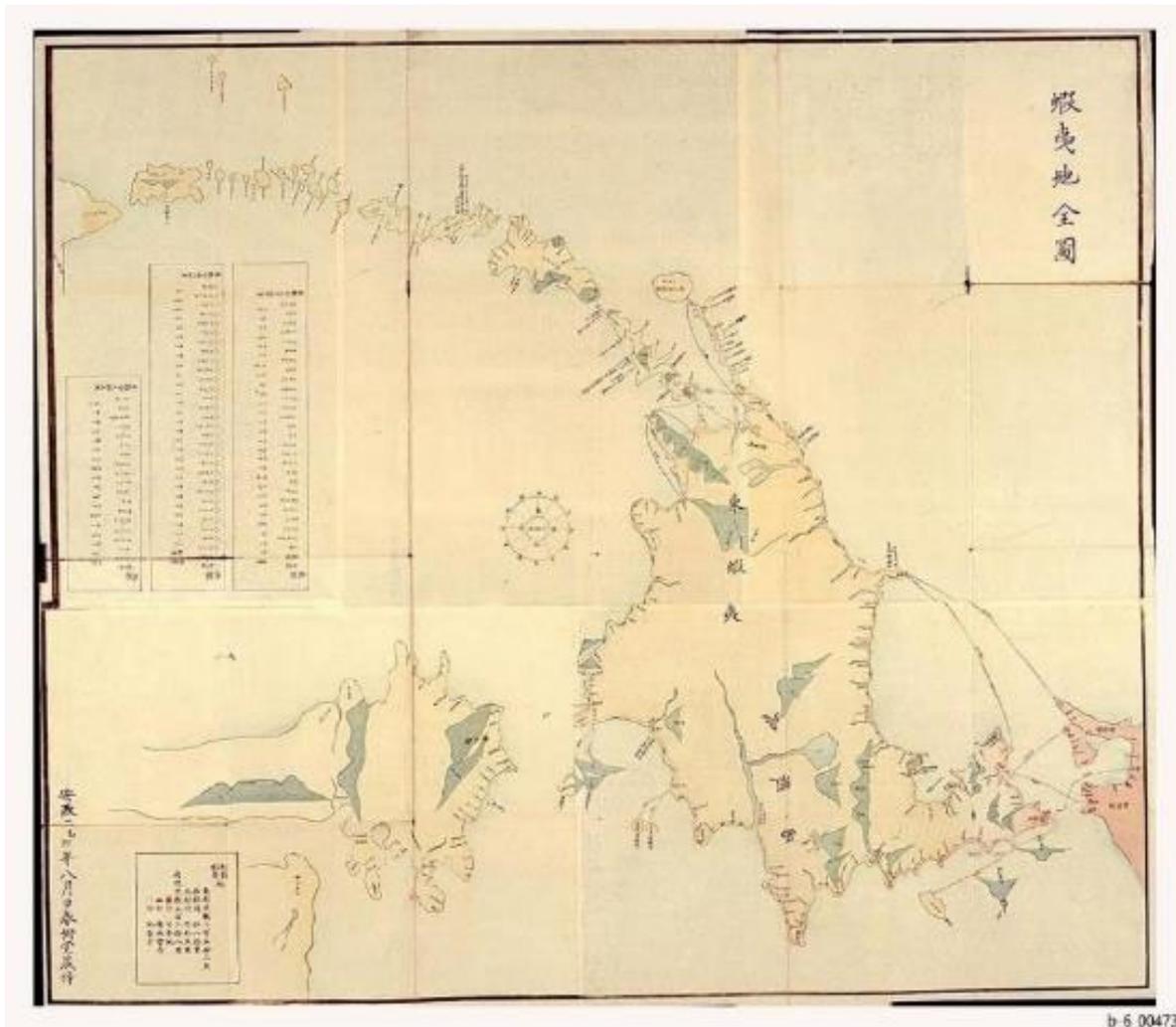
資料名	大日本沿海要疆全図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00349
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1854年／嘉永7年／江戸後期
寄贈者/入手元	北海道立図書館北方デジタルライブラリー
資料の寸法 cm	105(H)×54(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道立図書館より画像データを申請のうえ取得。 管理番号1650 嘉永7年(1854)、弘前(現青森県弘前市)の地理学者・工藤東平が作成した日本図であるが、北方の図形を見ると外国図を参考として作成されたものと推測される。周囲に経緯度の目盛がある。木版・色刷。 江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



資料名	日本輿地全図
資料整理番号	b-6_00323
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1854年／嘉永7年／江戸後期
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	37.5(H)×51(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会

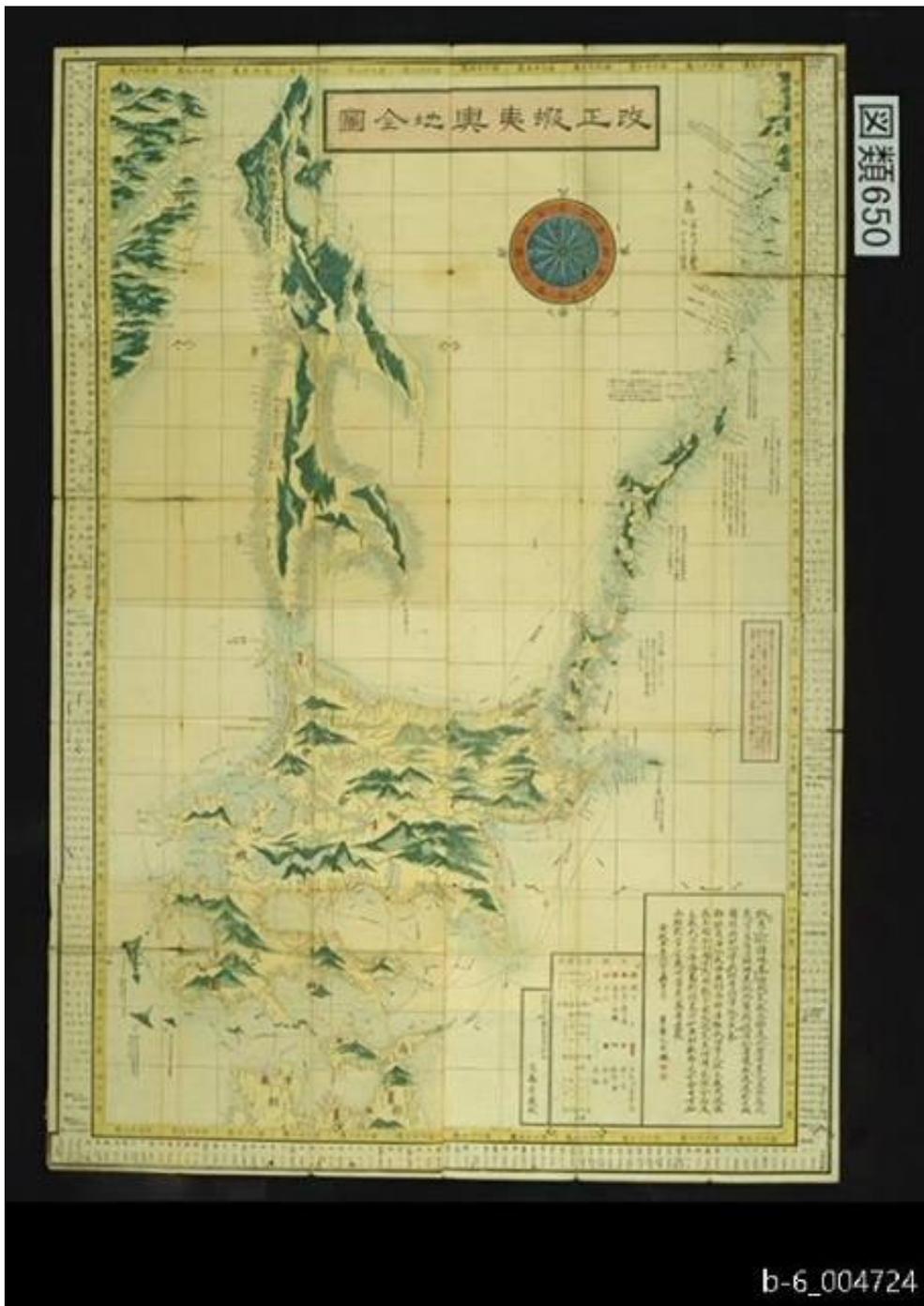
解説 嘉永7年(1854)に出版された日本地図で中島翠堂の著作であるが、北方周辺図を別に貼付している。これは既刊の日本図に急遽北方図を貼付して、需要に応えたものと思われる。しかし、カラフト島はいまだに半島である。木版・色刷。

江戸後期（1821-1868）
文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



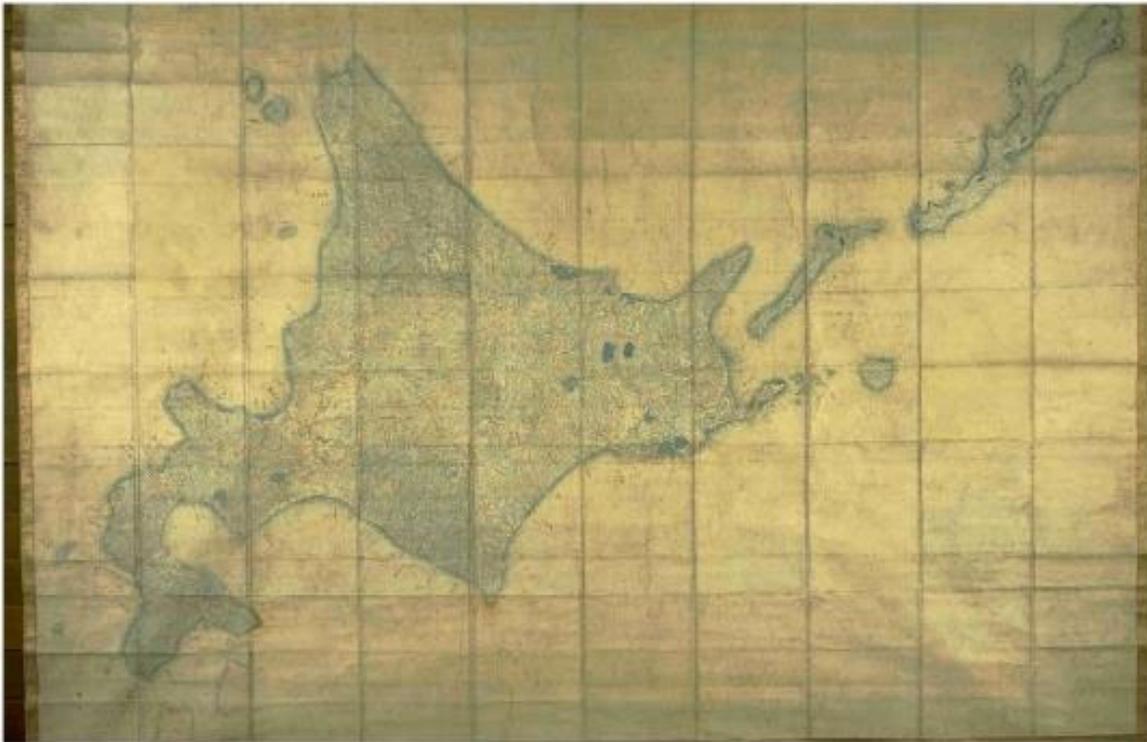
b-6_00473

資料名	蝦夷地全図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00473
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1855年／安政2年／江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	100(H)×87(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得（図類78） https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D00175000000000 安政2年(1855)の出版であるが、古い蝦夷図を利用した粗略なもので、とくにカラフト島は図形をなしていない。木版・色刷。 江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



b-6_004724

資料名	改正蝦夷輿地全図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00474
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1859年／安政6年／江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	143(H)×112(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得(図類650) https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D00182000000000 安政6年(1859)に出版された大型の蝦夷図である。蝦夷地の図形は従来のもので変わらないが、目新しいのは周囲に地名と里程を掲載することである。「方言訳名・方言付録」としてアイヌ語も載せる。表題は『蝦夷松前一円図』である。木版・色刷。 江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



b-6_00448

資料名	東西蝦夷山川地理取調図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00448
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1859年／安政6年／江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	236(H)×353(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得（軸物135） https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D00187000000000 6度にわたって蝦夷地を踏査した松浦武四郎は、多くの著作をし、また地図も多く作成した。本図はその中でも最も優れたものとして知られる。安政6年(1859)に出版され、2枚の解説書と26枚の地図からなる。その26枚の図を貼り合わせたものである。木版・色刷。 江戸後期（1821-1868） 文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



資料名	官板実測日本地図「蝦夷諸島」(画像データ)
資料整理番号	b-6_00449
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	江戸後期
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	154(H)×198(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得(図類263(4)) https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D00219000000000</p> <p>伊能忠敬による最終の日本地図は文政4年(1821)に完成した。その中の小図(3枚組)を幕末になって幕府の開成所からカラフト島図を新たに加えて4枚組として慶応元年(1865)に出版したのが本図である。内陸部の空白部分は松浦武四郎の地図によって補われた。木版・色刷。</p> <p>江戸後期 (1821-1868) 文政4年(1821)、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。</p>



資料名 大日本道中行程細見記(画像データ)

資料整理番号 b-6_00289

地域情報 その他
備考：全国

作成・発行時期 江戸中期から明治初年

寄贈者/入手元 佐藤 貢氏

資料の寸法 cm 19(H)×806(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 寄贈者より原本借用のうえ、複写し、取得

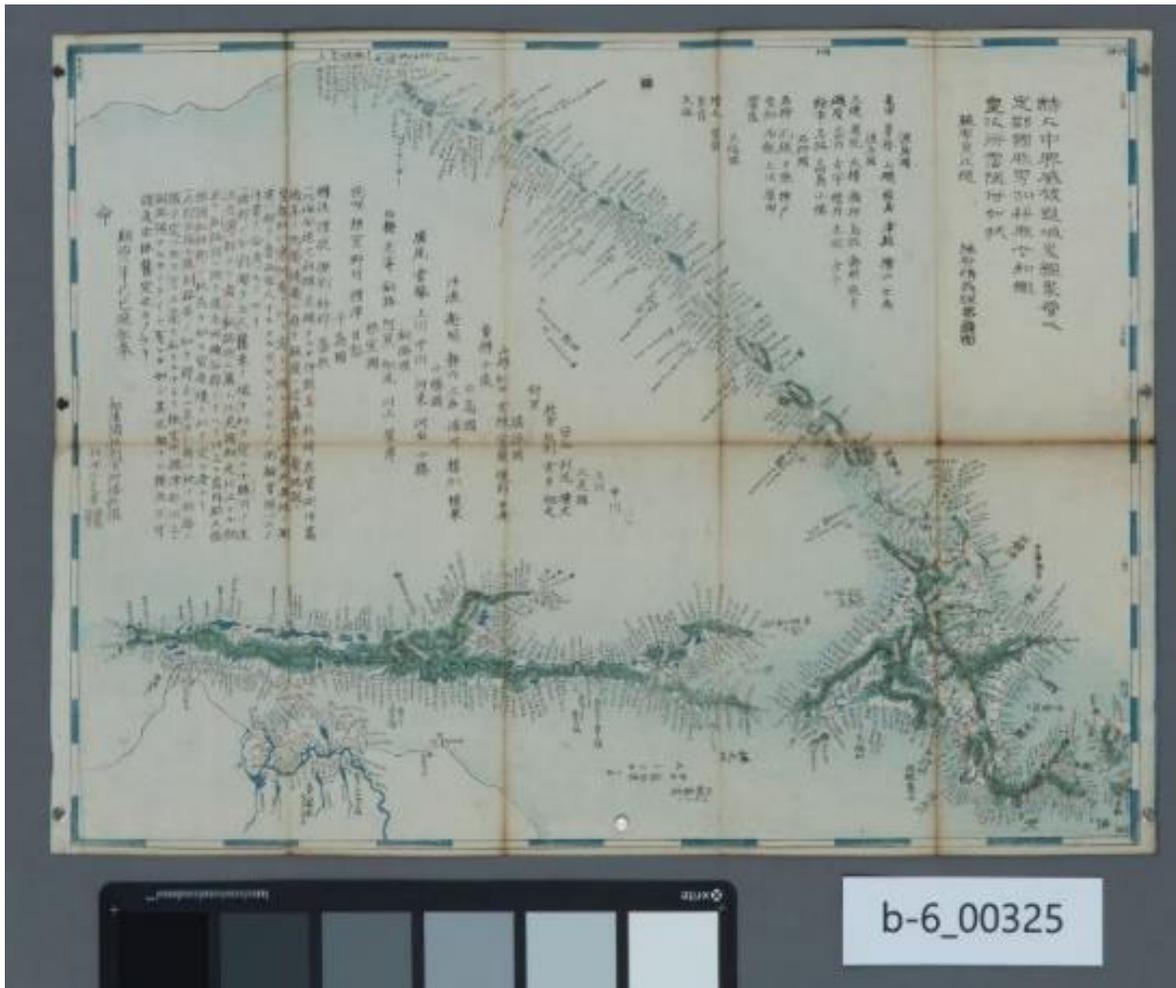
江戸中期から明治初年に至るまで数多く出版されたもので、「道中記」「道中図」と称される折帳形式の全国街道案内図である。旅する人々のために作成されたもので、各地への地名・里程を掲載し、主な地名にはその地の様子を記す。蝦夷地は図形を成していない。木版・着彩。

江戸中期（1781-1820）

天明期を迎えて、幕府による蝦夷地調査によって画期的な蝦夷図が作成された。ここから、蝦夷地の探検・調査も進み、実地調査に基づいた新しい図形をもつ蝦夷図が次々と誕生していく時期である。

江戸後期（1821-1868）

文政4年（1821）、幕府の直轄地であった蝦夷地は松前藩に返却されて、新しい蝦夷地経営が開始される。それに伴って蝦夷図も多様性をもって数多く作成され、また、それまで少なかった木版図も数多く出版されていく時期である。



資料名 北海道国郡界図

資料整理番号 b-6_00325

地域情報 全島
備考：

作成・発行時期 1869年／明治2年

寄贈者/入手元 -

資料の寸法 cm 37(H)×50(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 明治2年(1869)、「蝦夷地」は「北海道」と改称される。それを記念して明治2年(1869)に出版された図である。開拓判官・松浦武四郎の作成であり、開拓使から出版された。「北海道国郡図」と対になるものである。木版・色刷。

b-6_00325



資料名 北海道十二ヶ国八十六郡明細図

資料整理番号 b-6_00326

地域情報 全島
備考：

作成・発行時期 1869年／明治2年

寄贈者/入手元 -

資料の寸法 cm 37(H)×49(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 明治を迎えて京都の東本願寺は、政府に対して北海道での布教と新道開削を願い出て許可された。本図はこの時、布教と新道開削を宣伝するために作成されたものであろう。明治2年(1869)と記載されるが、実際の出版は翌3年と推測される。表題は『北海道国郡明細図』である。木版・色刷。

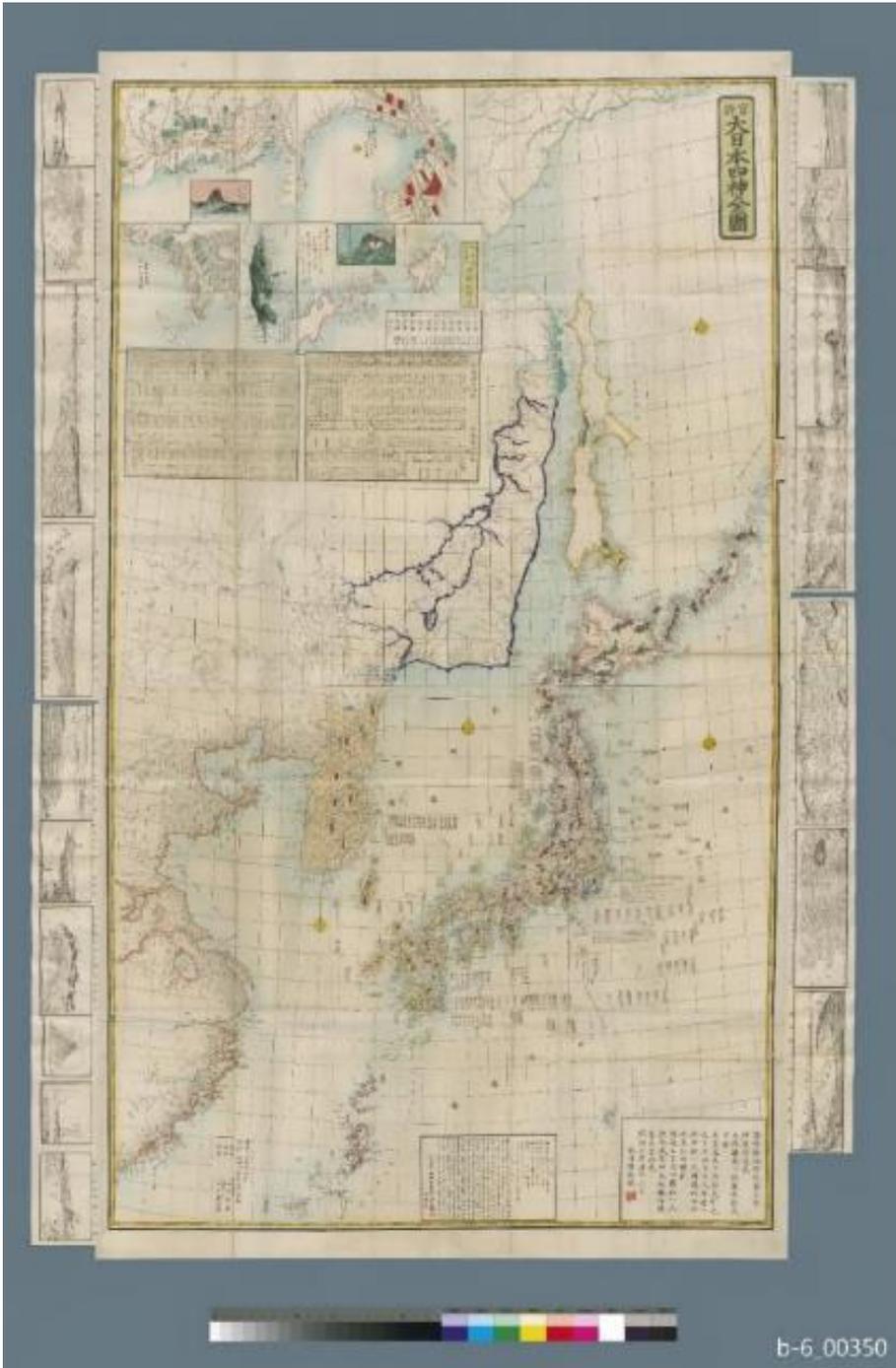
b-6_00326



b-6_00396

資料名	千島一覽(画像データ)
資料整理番号	b-6_00396
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1870年／明治3年
寄贈者/入手元	函館市中央図書館デジタル資料館
資料の寸法 cm	38(H)×75(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	函館中央図書館より画像データを申請のうえ取得（K08マツ8001）

明治3年(1870)に松浦武四郎作成図を東京から出版したものである。北海道を鳥瞰図風に描いた図であるが、ここでいう「千島」とは、古代・中世に蝦夷地周辺を「蝦夷ヶ千島」といわれた故事によるものと思われる。木版・色刷。



資料名	大日本四神全図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00350
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1871年／明治4年
寄贈者/入手元	北海道立図書館北方デジタルライブラリー
資料の寸法 cm	182(H)×125(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道立図書館より画像データを申請のうえ取得。 管理番号1630 北はオホーツク沿岸から西は黒竜江沿岸・朝鮮半島・中国沿岸まで、南は琉球までの広範囲を描いた大型日本図である。明治4年(1871)、横浜浮世絵師・橋本玉蘭齋の作図による出版であり、北海道周辺に重点をおいた図である。「四神」とは東西南北を意味する言葉である。木版・色刷。

図類288



b-6_00418

資料名	千嶋州択捉振別紗那薬取四郡全図 (画像データ)
資料整理番号	b-6_00418
地域情報	択捉島 備考：
作成・発行時期	1871年／明治4年
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	52(H)×70(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得（図類288） https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D02001000000000 松本十郎は現山形県鶴岡市出身の開拓使に勤めた開拓判官である。根室に在勤中に、イトロフ島を調査した中原大主典の伝聞に基づいて作成したものである。明治4年(1871)年の図である。写図・着彩。



資料名	銅鑄日本輿地全図
資料整理番号	b-6_00345
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1872年／明治5年
寄贈者/入手元	高木 崇世芝氏
資料の寸法 cm	49(H)×69(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	明治5年(1872)に中島彭編述の日本地図であるが、右側に北海道・国後島、択捉島及び千島列島・樺太島の地図を別に貼付する。下部に多くの統計表を記載している。銅版・色刷。



資料名 千島州捉嶋概測図(画像データ)

資料整理番号 b-6_00419

地域情報 捉嶋島
備考：

作成・発行時期 1874年／明治7年

寄贈者/入手元 北海道大学附属図書館北方資料室

資料の寸法 cm 28(H)×40(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得(図類86)
<https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D02004000000000>

明治7年(1874)、開拓使勤務の甘利後知が作成したエトロフ島図である。島内の山地はケバ描法で表現している。詳細な説明文を記載する。
写図・無彩。



資料名	大日本分国輿地全図
資料整理番号	b-6_00327
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1877年／明治10年
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	103(H)×158(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	明治10年(1877)に宮脇通赫によって著作・出版された日本全図全8幅の内の第8幅「北海道地図」である。詳細で美しい大型図で、この時期これほど大きい北海道地図は本図だけである。「千島国諸島図」が大きく載る。縮尺50万の1と推測される。銅版・色刷。



資料名 改正 大日本分国北海道全図

資料整理番号 b-6_00328

地域情報 全島
備考：

作成・発行時期 1879年／明治12年

寄贈者/入手元 -

資料の寸法 cm 80(H)×57(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 明治12年(1879)に開拓使や函館県庁に勤務した田最上藤五の著作になる図である。千島列島も大きく描く。「北海道物産表・戸数及人口表・北海道区役表」の他に「高山・湖・河川」の表も載る。縮尺は約518万分の1である。銅版・色刷。

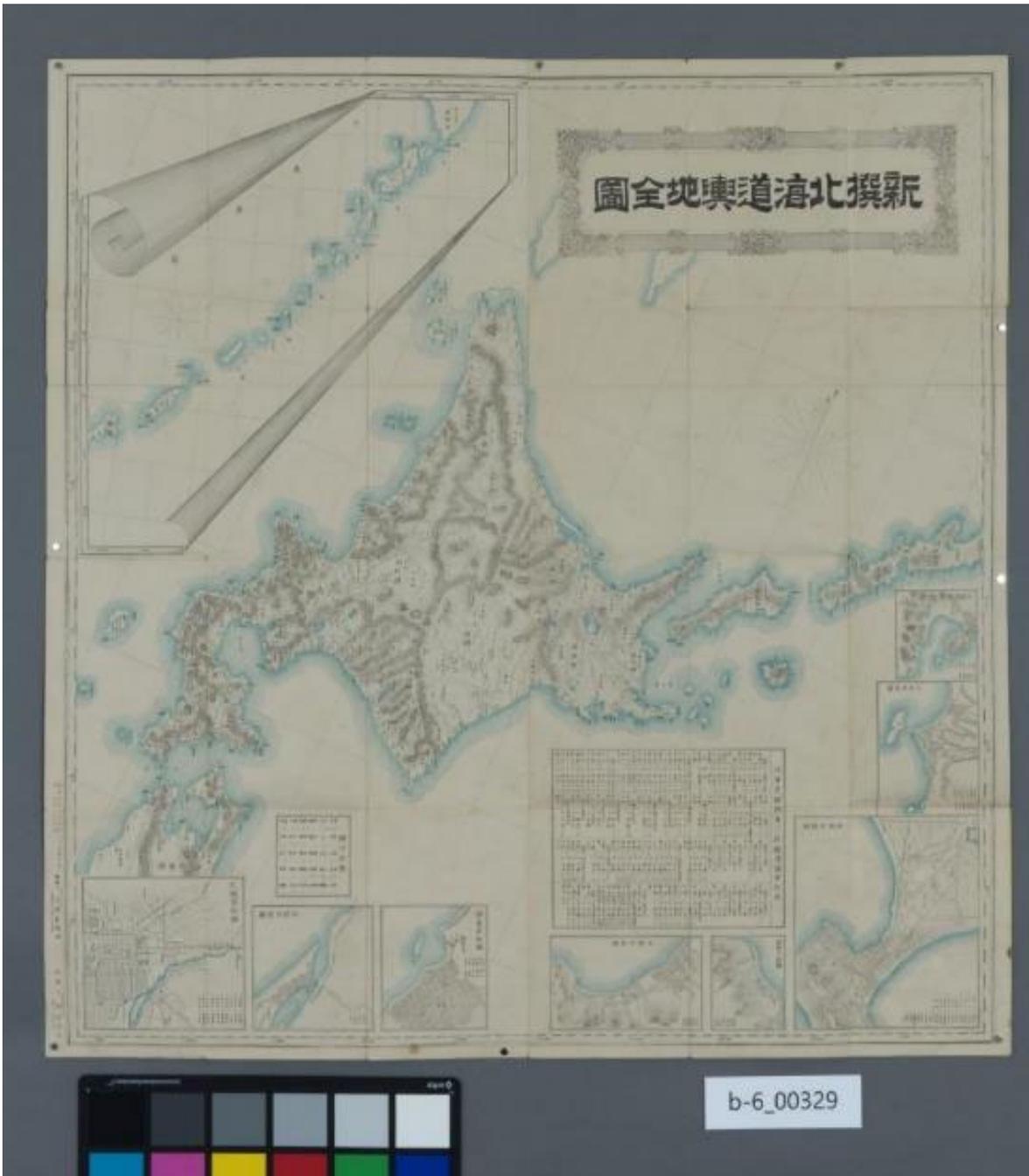
b-6_00328



資料名	択捉全島概略之図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00420
地域情報	択捉島 備考：
作成・発行時期	1879年／明治12年
寄贈者/入手元	北海道大学附属図書館北方資料室
資料の寸法 cm	34(H)×144(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得(図類83) https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D02013000000000 明治12年(1879)に平田景行が作成した自筆図である。写図・無彩。



資料名	改正北海道全図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00348
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1887年／明治20年
寄贈者/入手元	北海道立図書館北方デジタルライブラリー
資料の寸法 cm	140(H)×179(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道立図書館より画像データを申請のうえ取得。 管理番号1671 明治20年(1887)、内務省地理局から出版された図であるが、同局から数多く出版された全国各地の府県図の1枚である。当時として最も正確な北海道図であったが、ケバ描写が過密過ぎて記載された地名が読みにくいのが難点である。縮尺50万分の1である。



資料名	新撰北海道輿地全圖
資料整理番号	b-6_00329
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1888年／明治21年
寄贈者/入手元	—
資料の寸法 cm	74(H)×73(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	明治21年(1888)の出版で、大須賀龍潭編輯になる図である。国後島、択捉島、千島諸島図を載せ、他に札幌など8市街図も掲載する。縮尺は不記。銅版・色刷。

図類676



資料名 改正北海道明細全図 (画像データ)

資料整理番号 b-6_00413

地域情報 全島
備考：

作成・発行時期 1889年／明治22年

寄贈者/入手元 北海道大学附属図書館北方資料室

資料の寸法 cm 72(H)×76(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 北海道大学附属図書館北方資料室より画像データを申請のうえ取得(図類676)
<https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0D00261000000000>

明治22年(1889)に石渡刀祢三が編輯し、函館で出版された地図である。「千島諸島図」の他、函館など6市街図も載せる。縮尺は不記。石版・色刷。

b-6_00413



資料名	大日本府県名所独案内
資料整理番号	b-6_00330
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1890年／明治23年
寄贈者/入手元	－
資料の寸法 cm	36(H)×97(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	明治期出版の鳥瞰図風日本全図は6点ほど知られるが、本図はその1点である。明治23年(1890)、嵯峨野彦太郎著作である。「北海道及千島全図」があり、周囲に各地の風景図76図を掲載し、「都会便覧・全国鉄道線路図」も載る。銅版・色刷。



資料名 北海道全図

資料整理番号 b-6_00331

地域情報 全島
備考：

作成・発行時期 1892年／明治25年

寄贈者/入手元 -

資料の寸法 cm 51(H)×52(W)

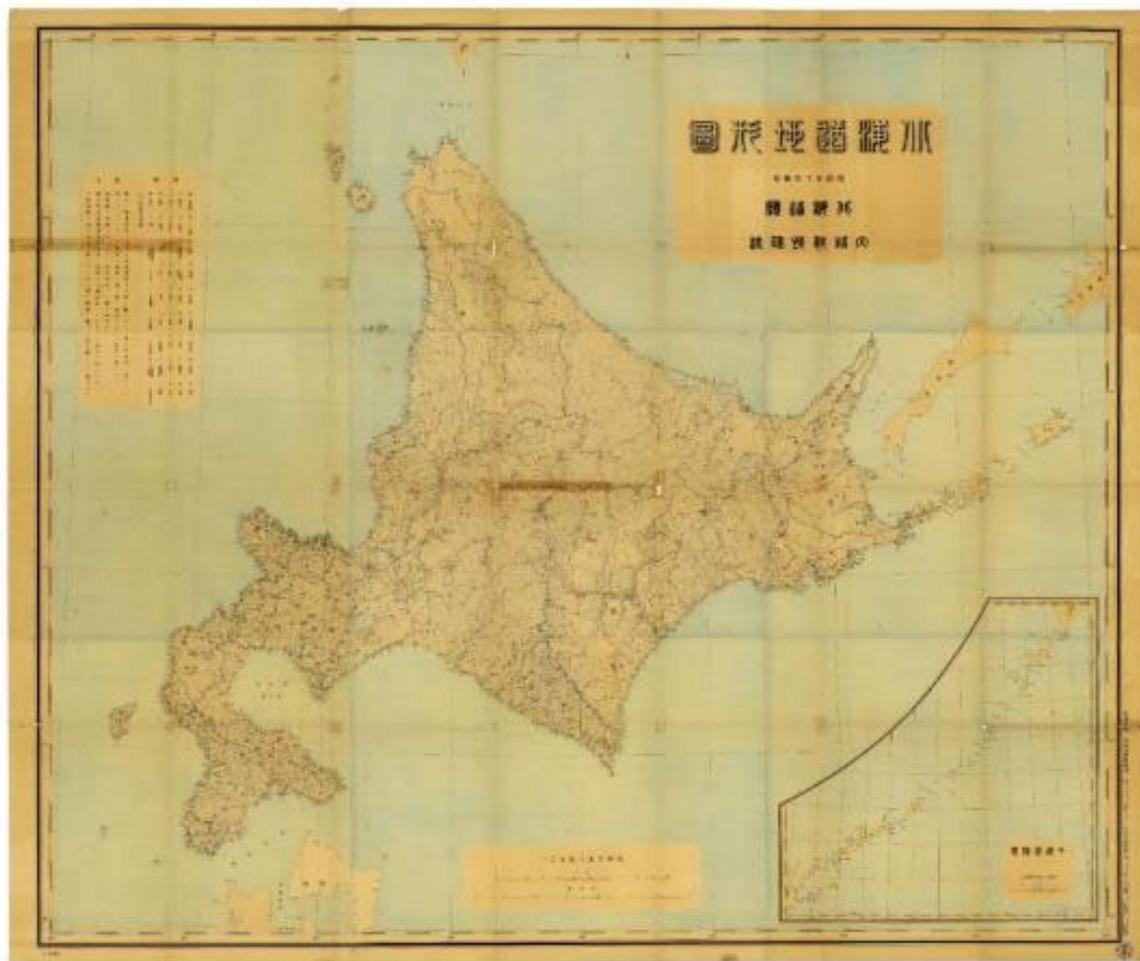
所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 明治25年(1892)に出版された田中太吉著作の地図である。図中に「千島諸島図」と札幌・函館市街図が載り、「北海道各駅里程表」もある。縮尺120万分の1である。表題は『新選北海道全図』である。石版・色刷。

b-6_00331



資料名	北海道明細新図
資料整理番号	b-6_00332
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1895年／明治28年
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	79(H)×76(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	明治28年(1895)に出版された大須賀龍潭編輯の地図である。「千島国図」の他、札幌など8市街図を載せる。縮尺75万分の1である。石版・色刷。



資料名 北海道地形図(画像データ)

資料整理番号 b-6_00352

地域情報 全島
備考：

作成・発行時期 1896年／明治29年

寄贈者/入手元 北海道立図書館北方デジタルライブラリー

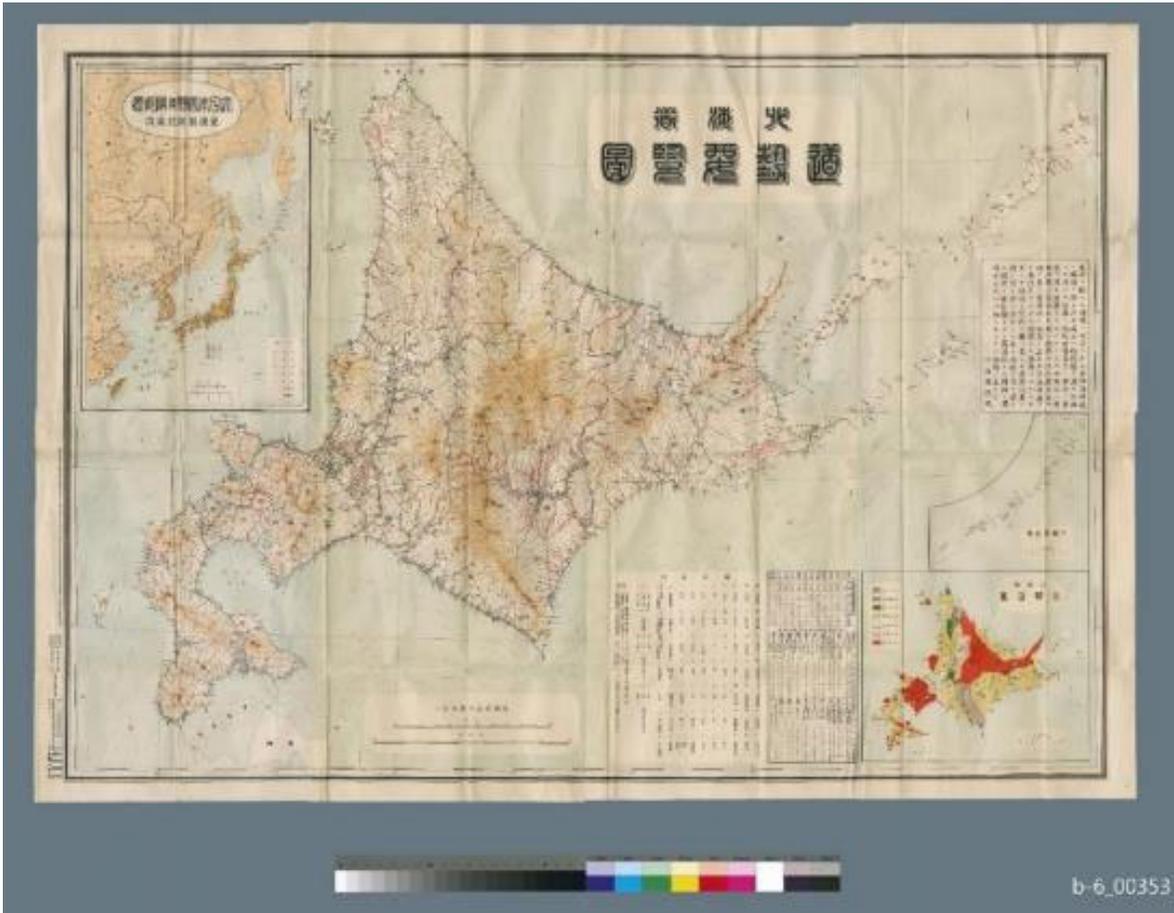
資料の寸法 cm 110(H)×146(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 北海道立図書館より画像データを申請のうえ
取得。
管理番号2187

明治29年(1896)、北海道庁が出版したものである。実地測量による成果を十分に発揮して作成・出版された精密正確なものである。初版から3版までであるが、本図は初版である。縮尺50万分の1である。石版・色刷。

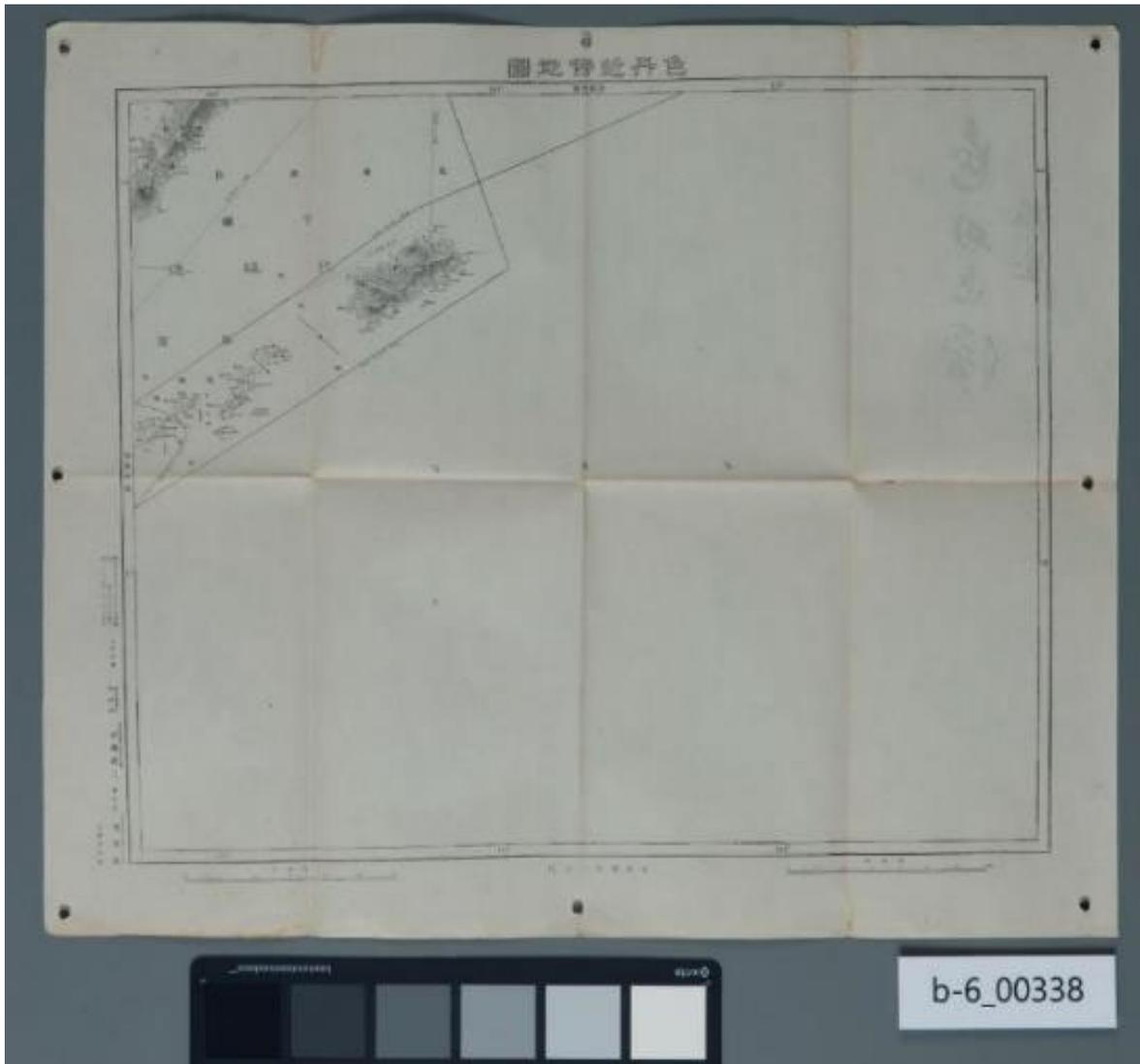
b-6_00352



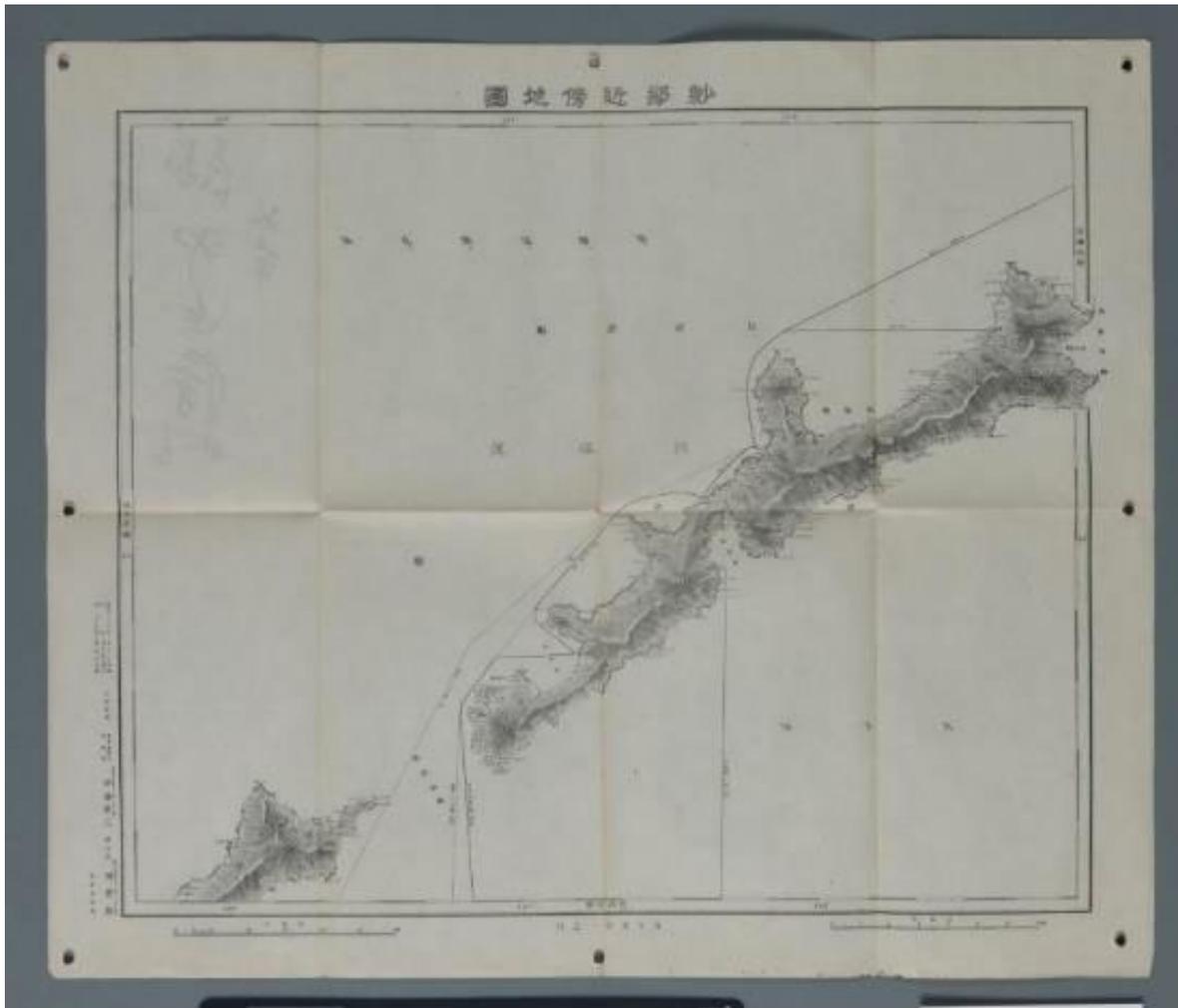
資料名	北海道道勢要覧図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00353
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1906年／明治39年
寄贈者/入手元	北海道立図書館北方デジタルライブラリー
資料の寸法 cm	18(H)×155(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	北海道立図書館より画像データを申請のうえ取得。 管理番号1672 『北海道地形図』を参照して、小池國信編で明治39年(1906)に出版された図である。小池は現長野県茅野市出身で北海道庁に勤務した人物である。縮尺50万分の1である。石版・色刷。



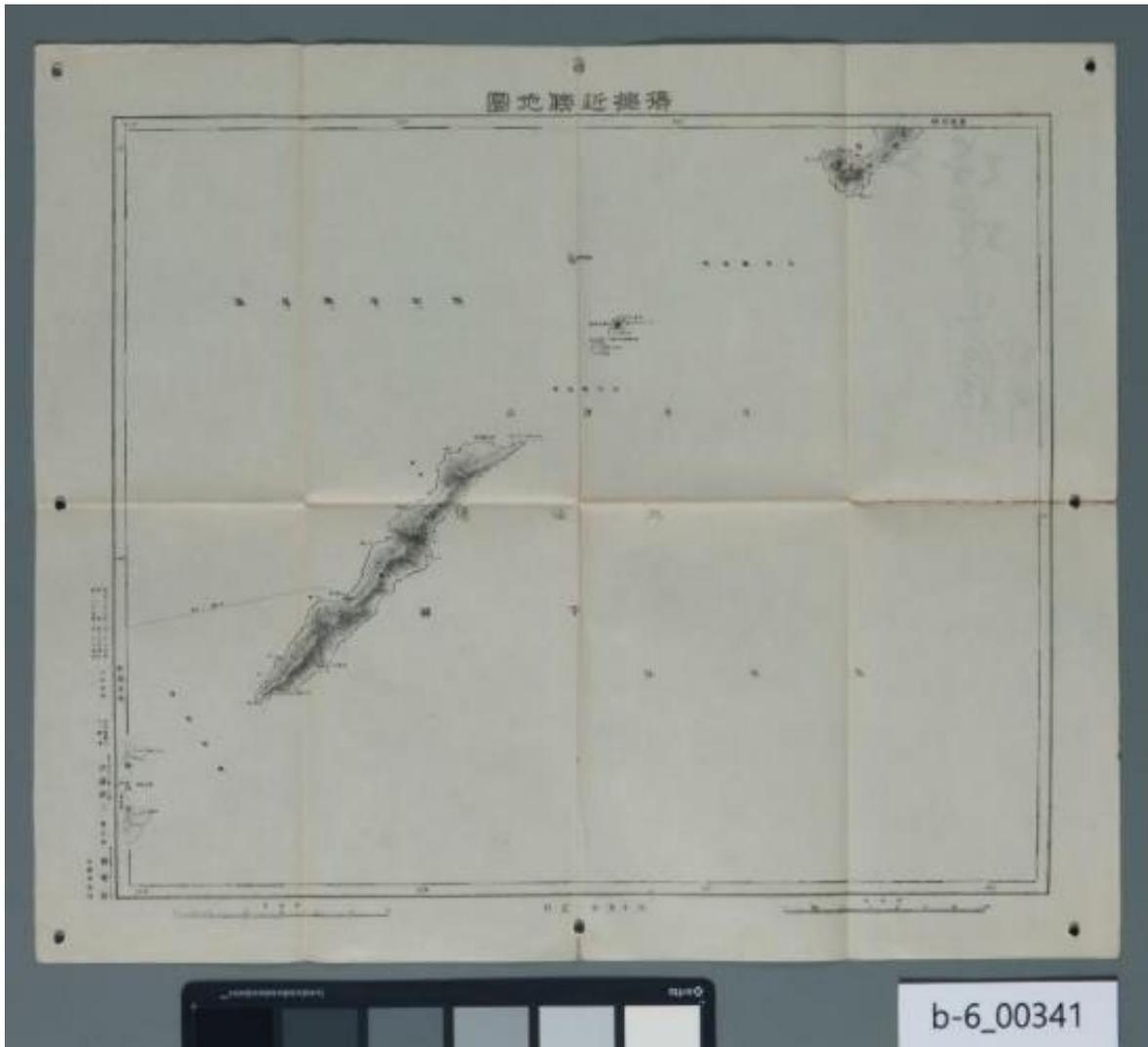
資料名	實用北海道新地圖
資料整理番号	b-6_00333
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1906年／明治39年
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	55(H)×79(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	明治39年(1906)に出版された図で再版である。嵯峨野彦太郎の著作で、明治末期の詳細な地図である。国後島・択捉島を大きく載せている。「参考大日本全図」の他、「函館市街・室蘭港・礼文島」も載る。縮尺80万分の1である。石版・色刷。



資料名	千島列島近傍地図 色丹
資料整理番号	b-6_00338
地域情報	色丹島 備考：
作成・発行時期	1906年／明治39年
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	49.5(H)×58(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	明治33年(1900)に初版が出版され、同39年の再版である。伊藤政三著の連続5枚続きの図である。色丹島、国後島、択捉島及び千島列島の全島を描写し、カムチャツカ半島に至る。地名も詳細で、山地はケバ描写である。縮尺50万分の1である。印刷・墨刷。



資料名	千島列島近傍地図 紗那
資料整理番号	b-6_00339
地域情報	択捉島 備考：紗那村
作成・発行時期	1906年／明治39年
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	49(H)×58.5(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	明治33年(1900)に初版が出版され、同39年の再版である。伊藤政三著の連続5枚続きの図である。色丹島、国後島、択捉島及び千島列島の全島を描写し、カムチャツカ半島に至る。地名も詳細で、山地はケバ描写である。縮尺50万分の1である。印刷・墨刷。



資料名 千島列島近傍地図 得撫

資料整理番号 b-6_00341

地域情報 その他
備考：得撫島

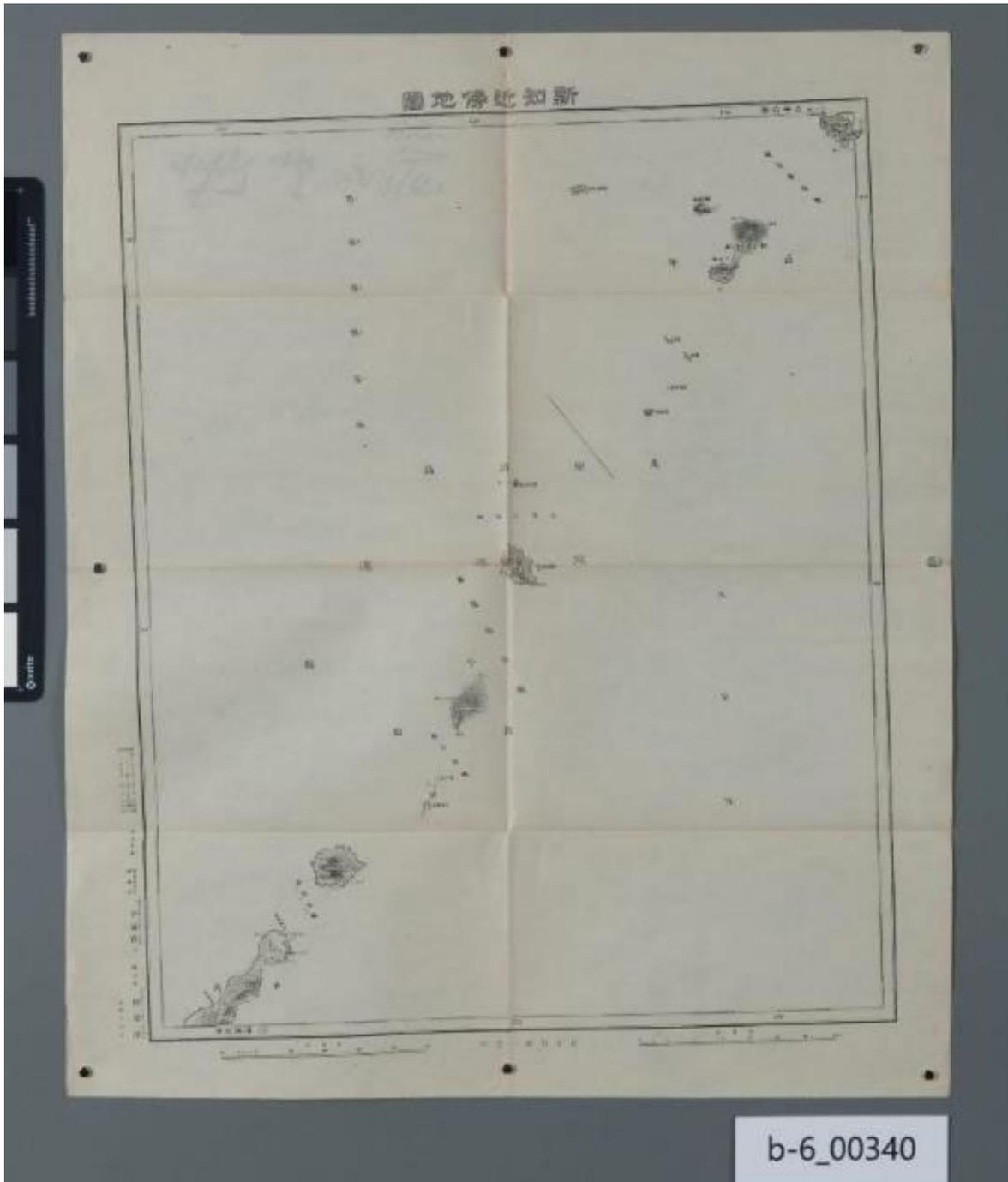
作成・発行時期 1906年／明治39年

寄贈者/入手元 -

資料の寸法 cm 49.3(H)×58.3(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 明治33年(1900)に初版が出版され、同39年の再版である。伊藤政三著の連続5枚続きの図である。色丹島、国後島、択捉島及び千島列島の全島を描写し、カムチャツカ半島に至る。地名も詳細で、山地はケバ描写である。縮尺50万分の1である。印刷・墨刷。



資料名	千島列島近傍地図 新知
資料整理番号	b-6_00340
地域情報	その他 備考：新知島
作成・発行時期	1906年／明治39年
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	49.4(H)×58.3(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	明治33年(1900)に初版が出版され、同39年の再版である。伊藤政三著の連続5枚続きの図である。色丹島、国後島、択捉島及び千島列島の全島を描写し、カムチャツカ半島に至る。地名も詳細で、山地はケバ描写である。縮尺50万分の1である。印刷・墨刷。



資料名 千島列島近傍地図 占守

資料整理番号 b-6_00342

地域情報 その他
備考：占守島

作成・発行時期 1906年／明治39年

寄贈者/入手元 -

資料の寸法 cm 49(H)×58.5(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 明治33年(1900)に初版が出版され、同39年の再版である。伊藤政三著の連続5枚続きの図である。色丹島、国後島、択捉島及び千島列島の全島を描写し、カムチャツカ半島に至る。地名も詳細で、山地はケバ描写である。縮尺50万分の1である。印刷・墨刷。



資料名	新選北海道全図
資料整理番号	b-6_00346
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1909年／明治42年
寄贈者/入手元	高木 崇世芝氏
資料の寸法 cm	76(H)×85(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	明治42年(1909)、鈴木茂行著作の北海道地図である。「千嶋全図」の他「北海道全部図」や小樽などの市街図11図を載せる。明治32年初版から24版を数えている。縮尺不記だが75万分の1であろう。石版・色刷。



資料名 大正最新北海道精図

資料整理番号 b-6_00335

地域情報 全島
備考：

作成・発行時期 1914年／大正3年

寄贈者/入手元 -

資料の寸法 cm 55(H)×79(W)

所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 大正3年(1914)に出版した中嶋三郎著作の地図であるが、同10年出版の12版である。「千島図」が載り、札幌など4市街図も載る。縮尺80万分の1である。印刷・色刷。

b-6_00335



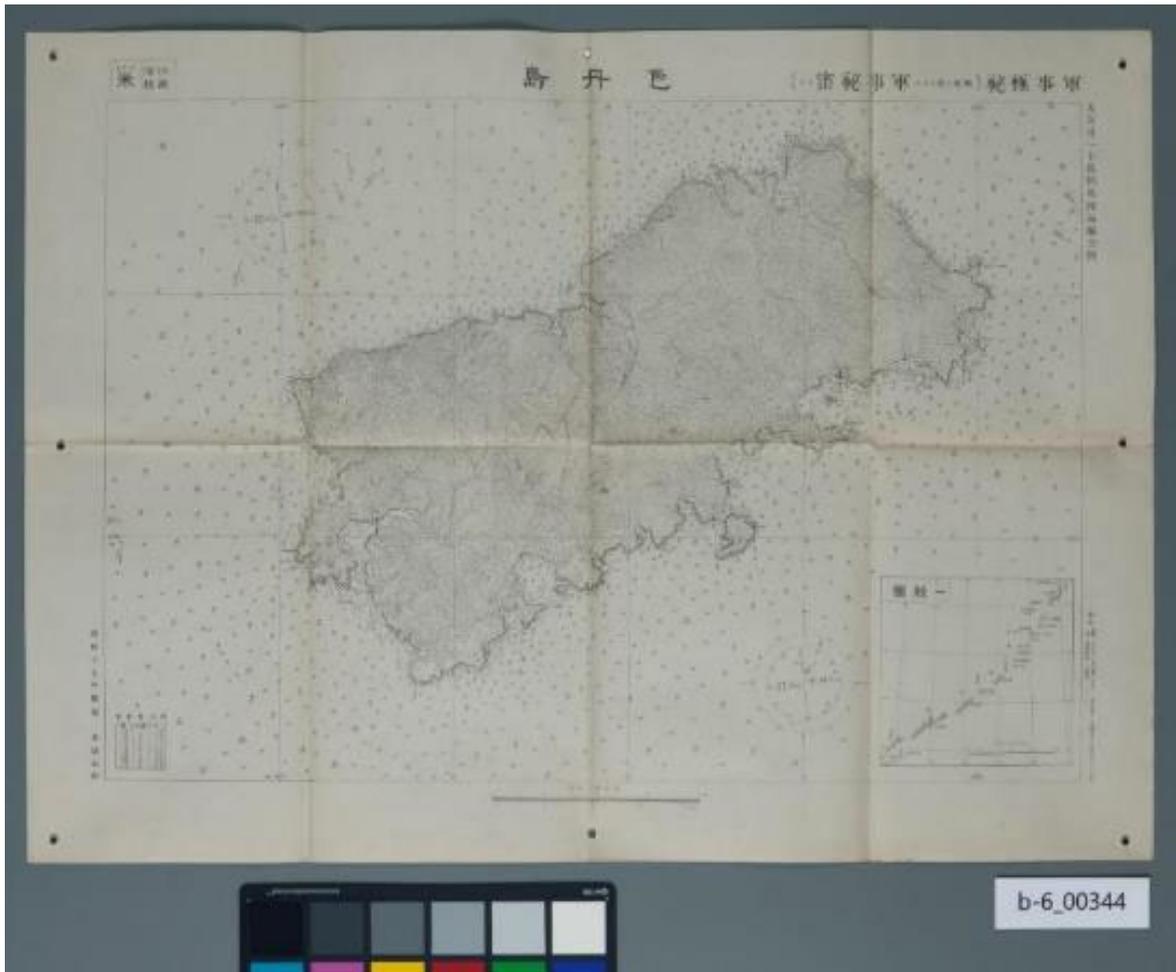
資料名	改訂 模範北海道全図
資料整理番号	b-6_00334
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1918年／大正7年
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	55(H)×78(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	大正7年(1918)出版図の同8年(3版)である。秦木魚製図であり、表面に「千嶋図」を載せ、裏面に「日本全図」の他に「樺太図」、函館など6市街図を掲載する。縮尺80万分の1である。印刷・色刷。



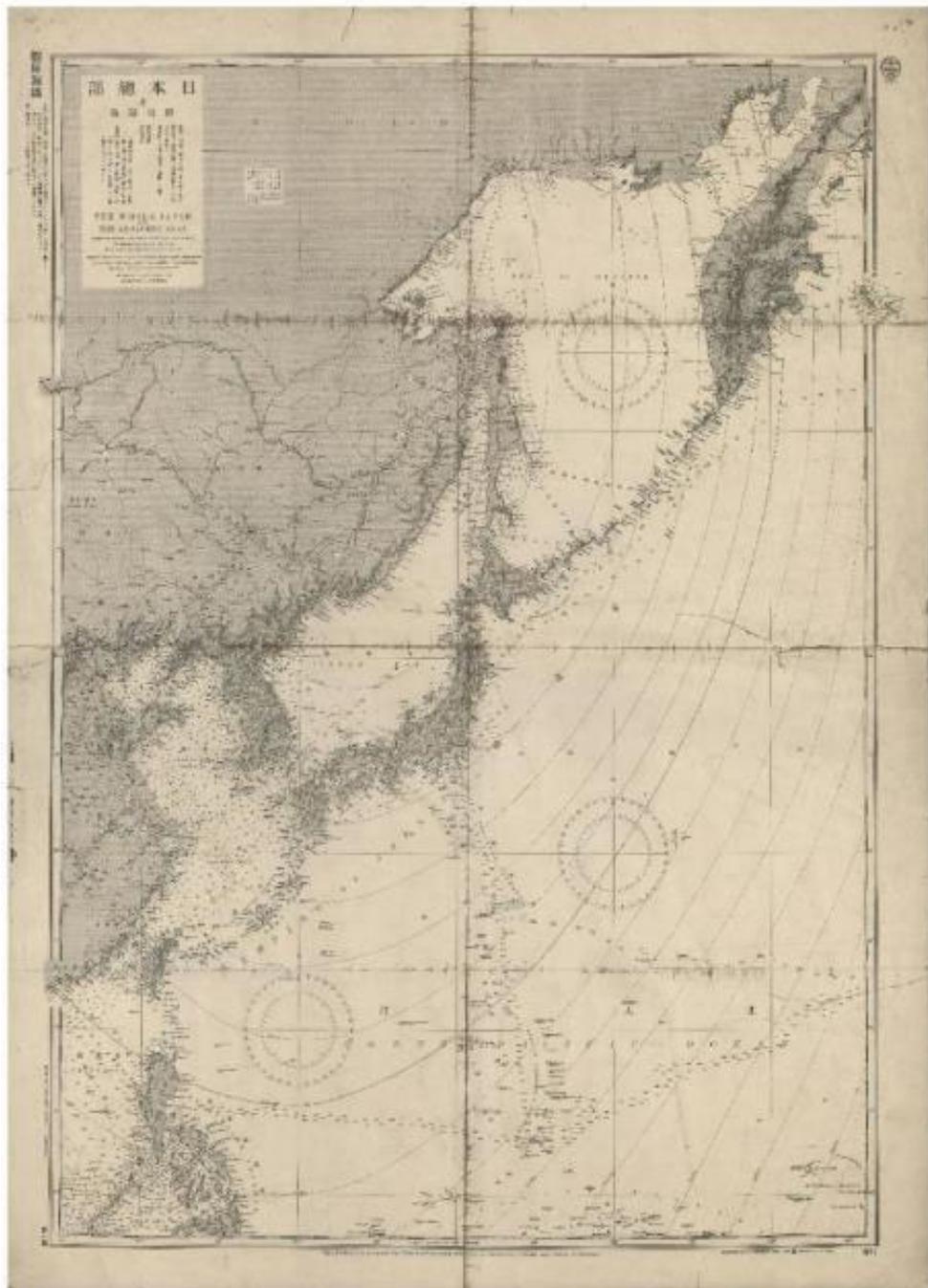
資料名	北海道詳図
資料整理番号	b-6_00336
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1927年／昭和2年
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	79(H)×109(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	昭和2年(1927)に出版された中村信以著作の地図である。「千島諸島図・樺太図」が掲載され、札幌など6市街図も載る。縮尺60万分の1である。印刷・色刷。



資料名	北海道全図
資料整理番号	b-6_00337
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1931-1932年／昭和6年～7年
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	55(H)×80(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	出版年や著作者名などは不記であるが、図中の鉄道線路の施設状況によって昭和6年～7年(1931～2)頃の出版と推測される。「千島図・樺太図」の他に、函館など4市街図も載る。縮尺80万分の1である。印刷・色刷。

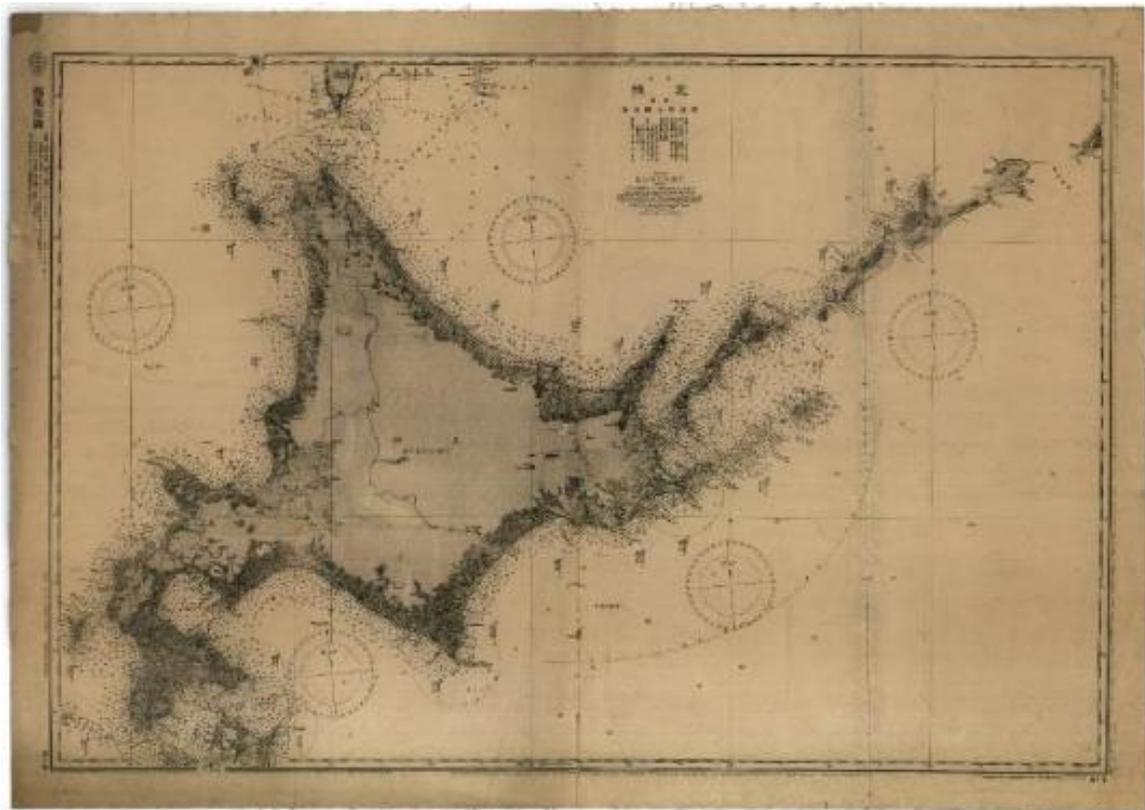


資料名	色丹島 (五万分一陸海編合圖)
資料整理番号	b-6_00344
地域情報	色丹島 備考：
作成・発行時期	1944年／昭和19年
寄贈者/入手元	-
資料の寸法 cm	63(H)×87(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	単独の色丹島の海図である。島内の山地は等高線で描写している。「軍事極秘」と明記され、「昭和十九年製版・参謀本部」と記されている。「参謀本部」とは、当時の陸軍省本部である。別に「千島列島図」が載る。縮尺5万分の1である。印刷・墨刷。



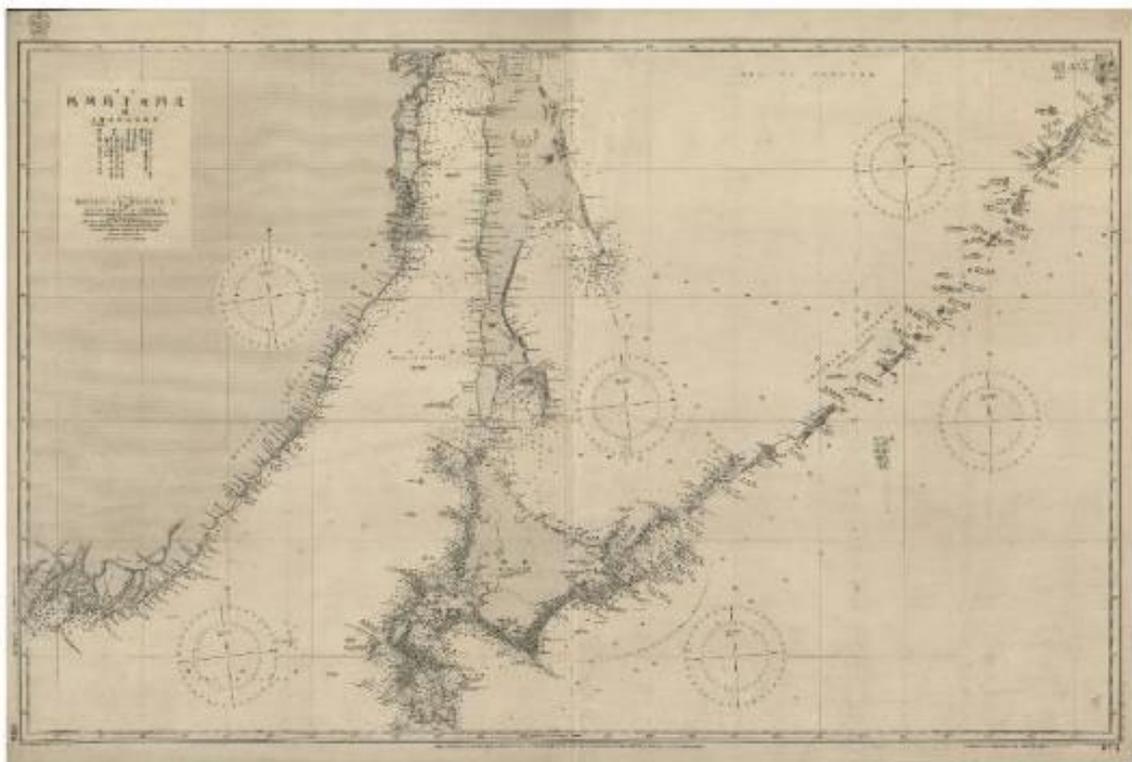
b-6_00354

資料名	海図1号 日本総部及附近諸海(画像データ)
資料整理番号	b-6_00354
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1907年3月／明治40年3月
寄贈者/入手元	海上保安庁海洋情報部
資料の寸法 cm	104.4(H)×75.6(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	海上保安庁海洋情報部より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。 本海図は総図に分類される海図であり、極めて広大な海域を収め、長距離の航海に使用され、主に航海計画立案用に使用される。1870(明治3)年から1886(同39)年にかけての海軍水路部の測量海図と英国海軍海図データに基づき作成され、1887(明治40)年に発行されたもの。明治初頭の日本近海の測量はわが国の水路測量機関が整備途上であったことから、米英等の諸外国からの日本沿岸や港湾の測量の請願を拒むことが出来なかった。1871(明治4)年英国軍艦に北海道の測量を許すこととなり、わが国から春日艦を協力させ、日本艦は野付錨地、瑛瑠瑠水道等、英国艦は厚岸湾、国後近海をそれぞれ分担して測量している。本海図は、1875(明治8)年千島樺太交換条約、1905(明治36)年のポーツマス条約後の発行であることから、北方四島を含む千島列島全島やサハリン南部も版図に置いた時期のものである。



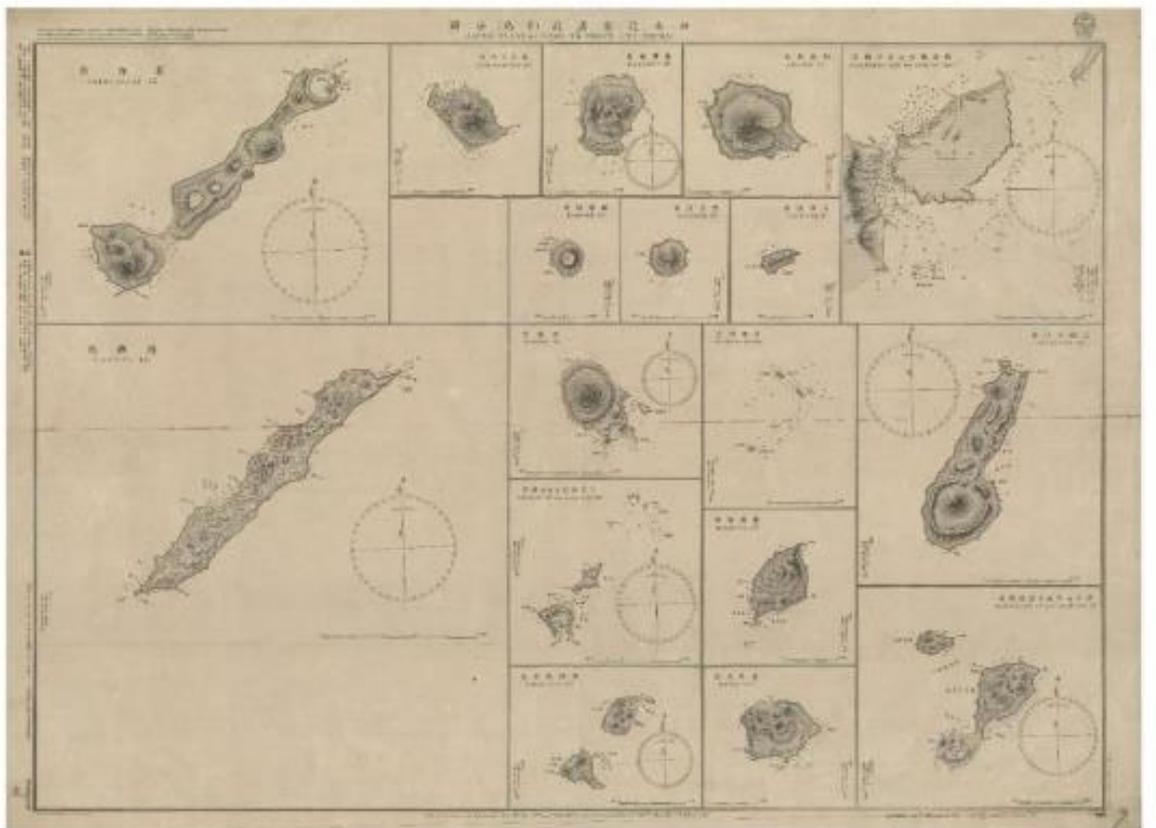
b-6_00355

資料名	海図3号 日本北洲附載択捉島及国後島 (画像データ)
資料整理番号	b-6_00355
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1888年11月／明治21年11月
寄贈者/入手元	海上保安庁海洋情報部
資料の寸法 cm	75.7(H)×105.6(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>海上保安庁海洋情報部より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。</p> <p>本海図は航洋図に分類される海図で、長距離の航海に用いられ、沖合の水深等が図示されている。1906(明治39)年までにかけての海軍水路部の測量によるもののほか、水路部が未測量の海域にあっては英国海軍海図データを用いたほか、開拓使時代を含む北海道庁による測量データを補填し構成したもの。海図番号は基本的に海図の作成順に付されるが(後に変更されるケースもある)、北海道や北方四島及び千島列島の海図は100番以内のものが比較的多く、北方四島を含めた北海道全域を記した本海図も番号が第3号ということから明治期、日本政府が北海道開拓・殖産を重視し、帝政ロシアの南下等の北辺に備え、旧帝国海軍に海図整備を急がせたことが窺える。また、本図は海図欄外に印刷後の用紙伸縮による距離誤差、刊行及び大小改正後以後の改正を行っていないことから、「仮海図」として、本図を航海用に使用する場合、海軍水路部は責任を問わない旨の記載がある。</p>



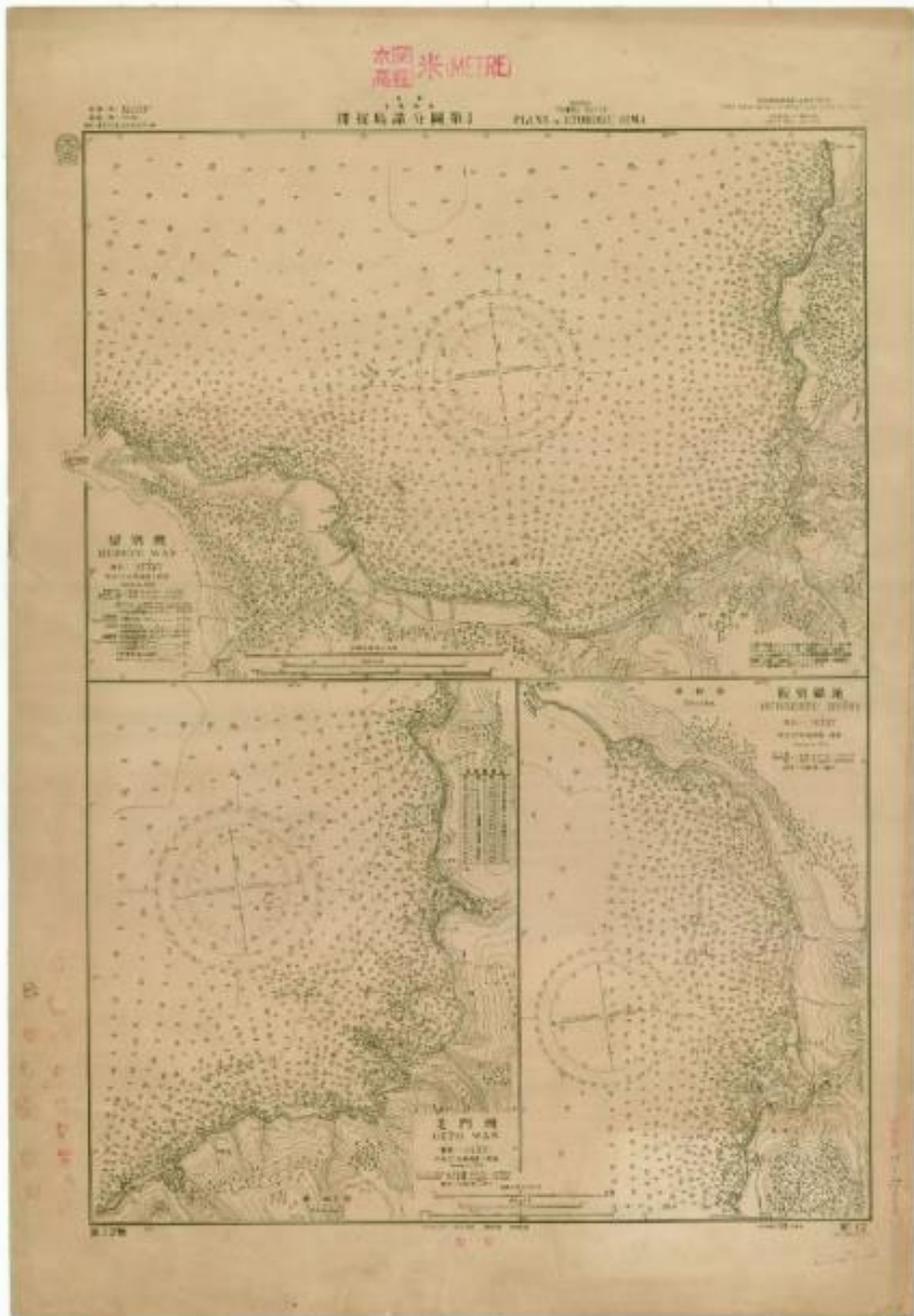
b-6_00356

資料名	海図4号 日本北洲及千島列島附黒龍沿岸州及樺太(画像データ)
資料整理番号	b-6_00356
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1905年3月1日／明治38年3月1日
寄贈者/入手元	海上保安庁海洋情報部
資料の寸法 cm	67.2(H)×101(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	海上保安庁海洋情報部より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。 本海図は航洋図に分類される海図で1904(明治37)年までにかけての海軍水路部の測量によるもののほか英国海軍海図データを用いて構成されたもの。本海図の印刷発行年月は1905(明治38)年3月であり、1904年(明治34)年2月に開戦されていた日露戦争の最中である。日露戦争の命運を懸けた日本海海戦は1905(明治38)年、対馬海峡海域で戦われたが、海戦前、大日本帝国海軍はロシア太平洋艦隊の増援の為、ロシアを出港しウラジオストックを向け航行していたロシアのバルチック艦隊の航路を対馬海峡、津軽海峡、宗谷海峡のいずれかと想定しており、宗谷海峡を航行するのであれば、北方四島及び千島列島の何れかの島嶼間(水深的には国後水道、択捉海峡とも大型艦艇の航行可能な海域)を航行し、宗谷海峡に向かうものと予想していた。時代背景的に本海図は戦闘海域になる可能性のある当時の最新情報を含んだ海図であった。



b-6_00357

資料名	海図9号 日本北東諸島(千島)分図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00357
地域情報	その他 備考：
作成・発行時期	1895年5月／明治28年5月
寄贈者/入手元	海上保安庁海洋情報部
資料の寸法 cm	50.6(H)×70.3(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>海上保安庁海洋情報部より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。</p> <p>本海図は1975(明治8)年、樺太千島交換条約によりロシア領から日本の領土となった北方四島択捉島以北の島嶼を記したものである。1895(明治28)年、海軍水路部から発行されたもので、1894(明治27)年発行の英国海軍海図第2128号の覆版で、幌延海峡及び得撫島床丹湾は旧大日本海軍水路部の発行海図第118号及び第141号の分図データから構成されたもの。樺太千島交換条約第二条に日本がロシアから譲渡される島として占守島から得撫島までの18の島々の名称が列挙されており、この事実が択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島の北方四島が一度も他国の領土になったことのない日本固有の領土であることを明確に示すものとされている。条約締結の翌年の1976(明治9)年に開拓使は譲渡された島嶼を千島国に編入し得撫郡(得撫島から武魯頓島)、新知郡(新知島から雷公計島)、占守郡(牟知列岩から占守島)の三郡を置いている。</p>



資料名 海図12号 擇捉島諸分図第1(画像データ)

資料整理番号 b-6_00358

地域情報 択捉島
備考：

作成・発行時期 1928年12月5日／昭和3年12月5日

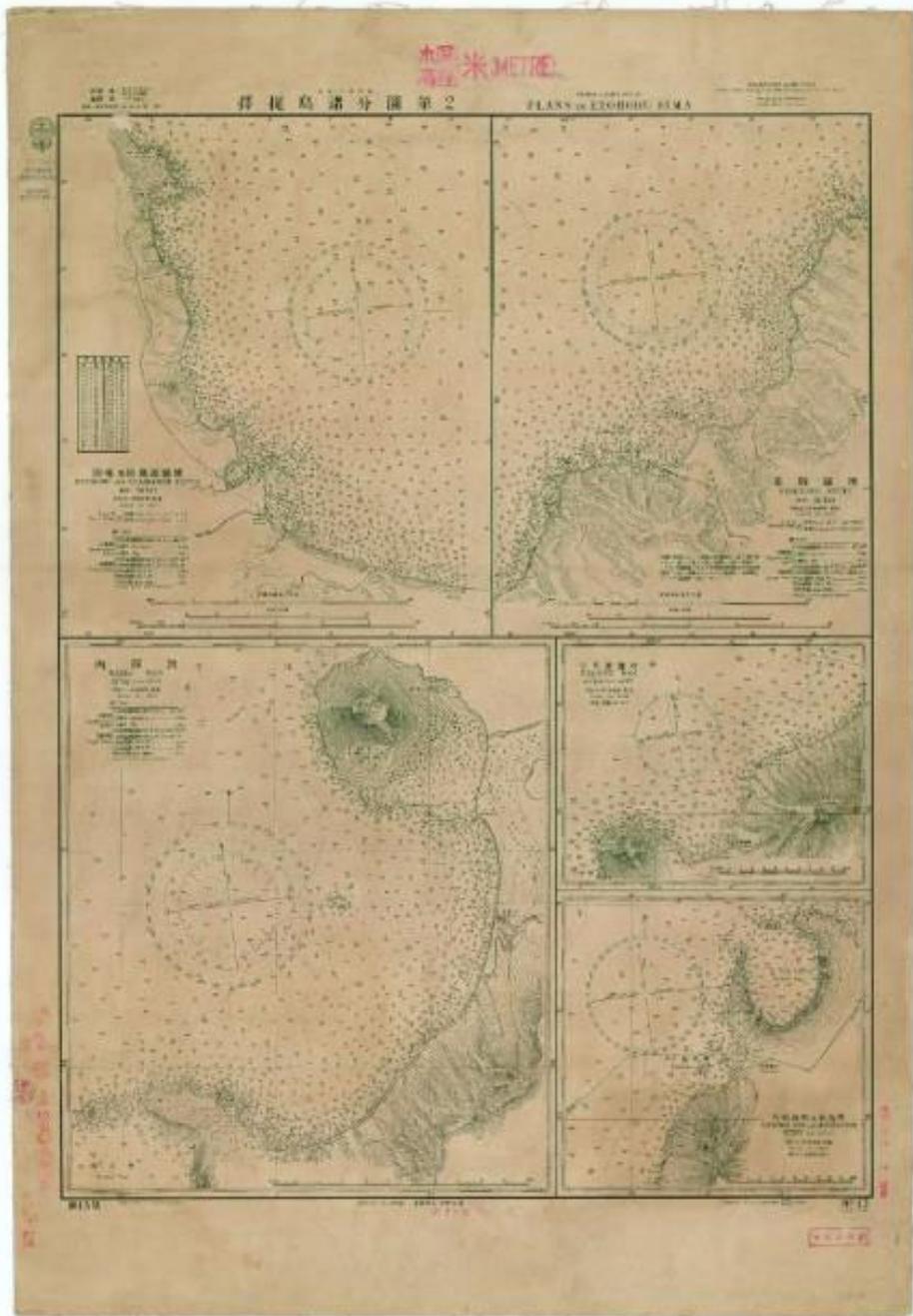
寄贈者/入手元 海上保安庁海洋情報部

資料の寸法 cm 81.3(H)×55.8(W)

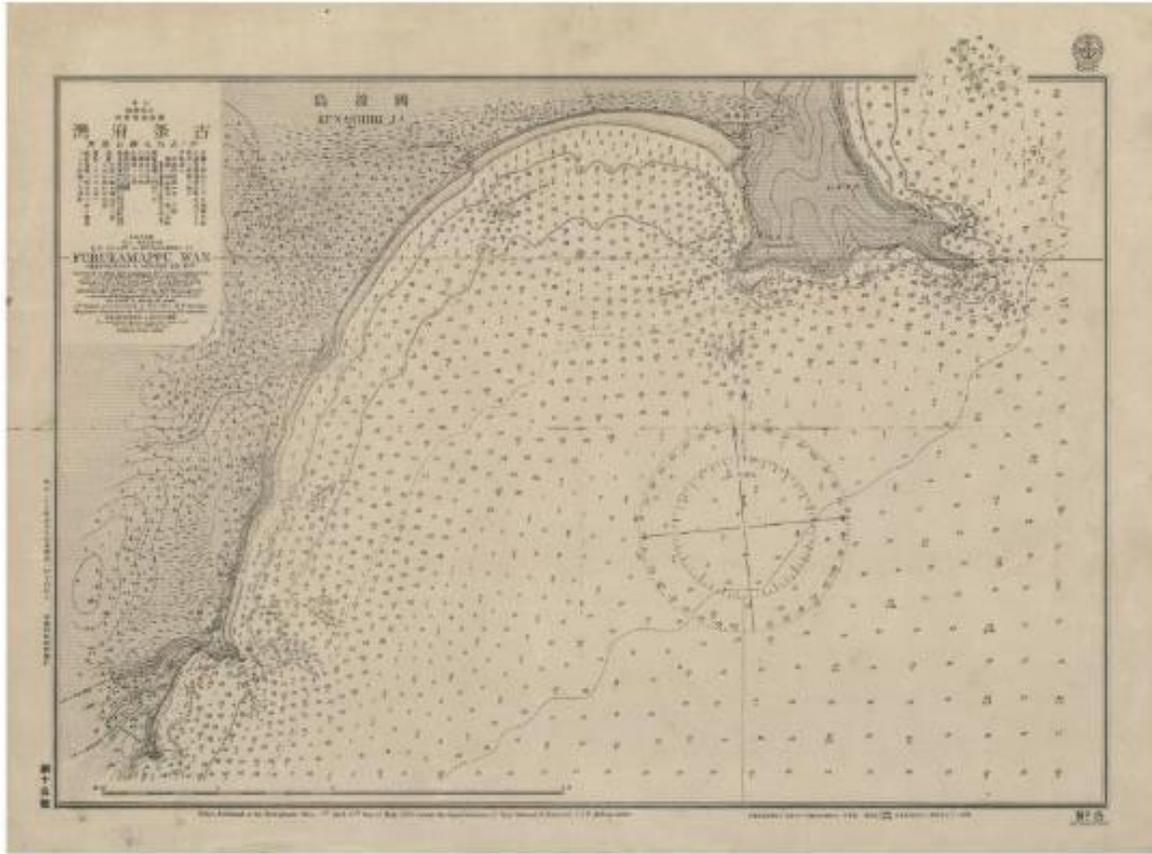
所蔵先 北方領土問題対策協会

備考 海上保安庁海洋情報部より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。

本海図は港泊図に分類される海図で、港湾、泊地、錨地、漁港、水道等のような小区域を詳細に描いたもの。1904(明治37)年に海軍水路部によって測量された択捉島のオホーツク海に面した留別湾、老門湾、振別錨地の海図データを元に1928(昭和3)年に改版発行されたものである。これらの港湾には北海道庁命令航路は設置されていないが、留別は1940(昭和15)年時点で夏期の盛漁期に限られ自由港航路が年間約30航海傭船によって運航され根室・紗那間、根室・年崩間、函館・薬取間の寄港地とされ、当時の留別漁業組合が自由航路の数便の経営を行っていることから地元の漁業経営の人流・物流を支えていたことが窺える。陸域以外の海域に付されている数字は各点の水深であり、現在の様に水深測定する位置を測定するレーダーやG.P.S.の様な電波測定器機や衛星航法装置もなく、水深の音波計測器機の未発達の時代での夥しい地点での浅深測量は困難を極めたものと窺える。

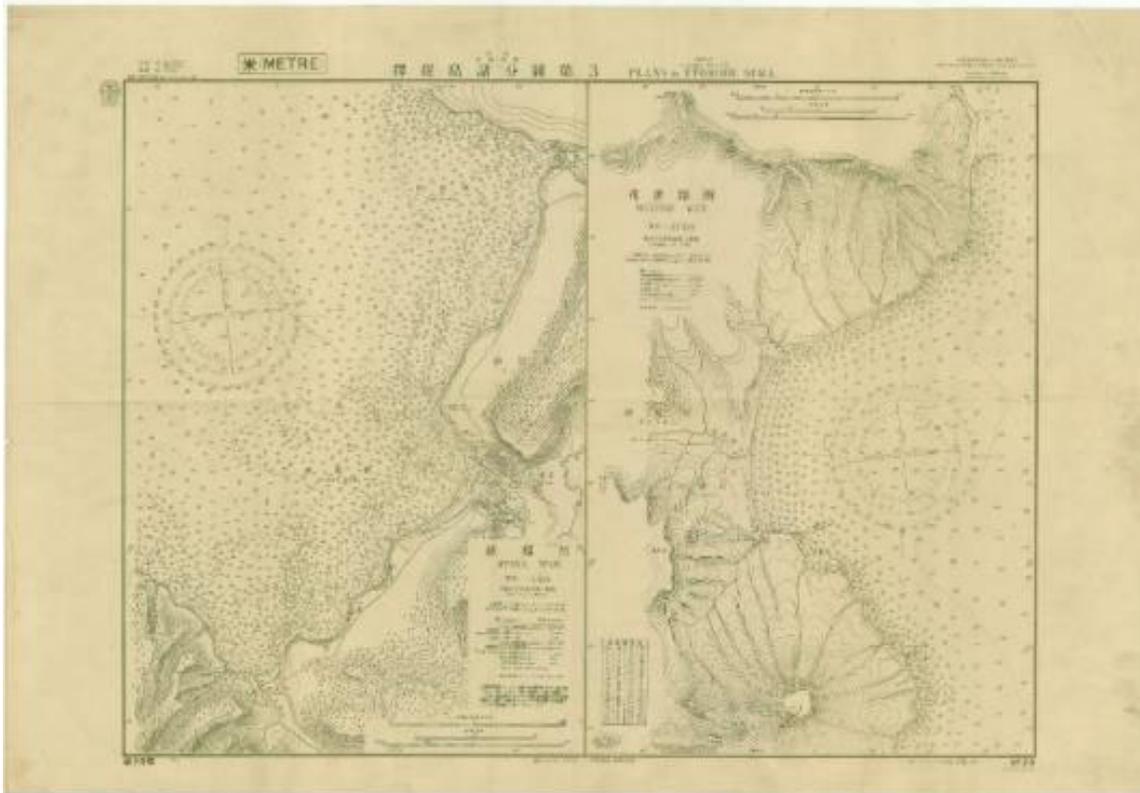


資料名	海図13号 擇捉島諸分図第2：別飛及紗万部 錨地、薬取錨地、内保湾、宇多須都湾、丹根 蒨湾及蒨消湾(画像データ)
資料整理番号	b-6_00359
地域情報	択捉島 備考：
作成・発行時期	1929年1月7日／昭和4年1月7日
寄贈者/入手元	海上保安庁海洋情報部
資料の寸法 cm	81.3(H)×55.8(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	海上保安庁海洋情報部より画像データを 申請のうえ取得。原則として成立順である海図 号数順に掲載。 本海図は港泊図に分類される海図。1905(明治38) 年に発行された海図第13号と基本的に同じ区域の 港泊図であるが、明治版が別飛錨地、薬取錨地、 藻寄湾、丹根蒨湾、单冠湾、歌棄湾の7箇所を記 していたものに対し、1929(昭和4)年に発行された本 海図は、別飛及紗万部錨地、薬取錨地、内保湾、 宇多須都湾、丹根蒨湾及蒨消湾の5箇所が採用さ れている。意匠も明治38年発行版が横長であったが、 昭和4年発行の本海図は縦長に変更されている。ま た、本海図の別飛及紗万部錨地、薬取錨地の二ヶ 所は、1909(明治42)年に海軍水路部により測量 データを元に改正したもので、明治38年発行の同区 域の水深記入ポイントに対し圧倒的に水深記入ポイ ントが増えていること分かる。採用単位も尋(1.8m)か ら米(1m)に変更されており、採用地名も明治38年 発行版は宇多須津(うたすつ)とあったのが、昭和3年 発行版では歌棄となっている。

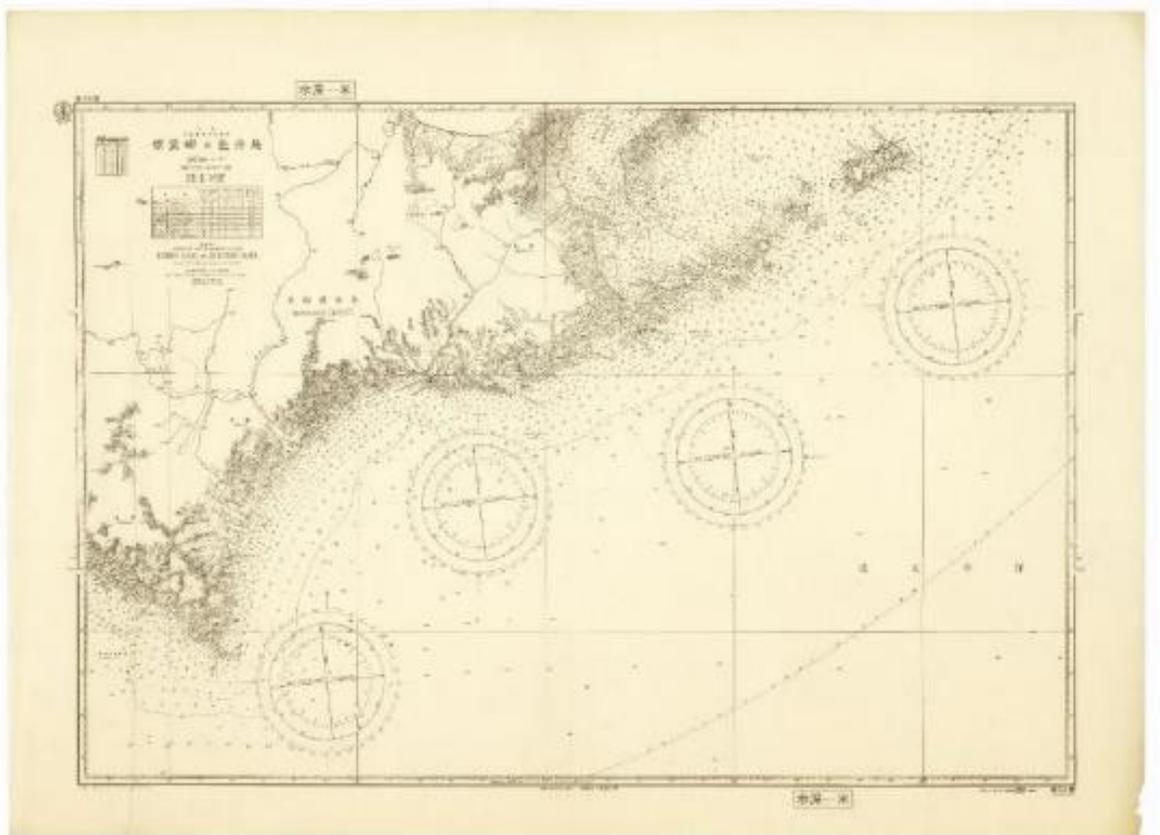


b-6_00362

資料名	海図15号 日本北東諸島 古釜布湾 (画像データ)
資料整理番号	b-6_00362
地域情報	国後島 備考：
作成・発行時期	1904年4月／明治37年4月
寄贈者/入手元	海上保安庁海洋情報部
資料の寸法 cm	37.2(H)×50.9(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>海上保安庁海洋情報部より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。</p> <p>本海図は港泊図に分類される海図で、1903(明治36)年に海軍水路部による測量データにより作成され、1904(明治37)年に発行されたもの。国後島古釜布は東沸の北東にあって、泊から北東に14里(約56Km)で湾口は南に開き、色丹島の東南に30海里(約55.6Km)の位置にある。国後島第一の漁港で魚族豊富、明治末年はカニ、ホタテ、ホッキが主産物で加工場が海浜に軒を並べ活況を呈していた。早くから良漁場として知られ、カニ缶詰製造の季節には、国後島で最も栄えている地帯である。北海道根室との航路は北海道庁命令航路、自由航路とも寄港地となっていた。1903(明治36)年時点での古釜布から瀬石沿岸の綿密な浅深測量が実施され海図化されている状況からも古釜布が国後島の主要な港湾のひとつであることが窺える。明治期に発行された本海図の水深の単位は尋(1.8m)である。</p>

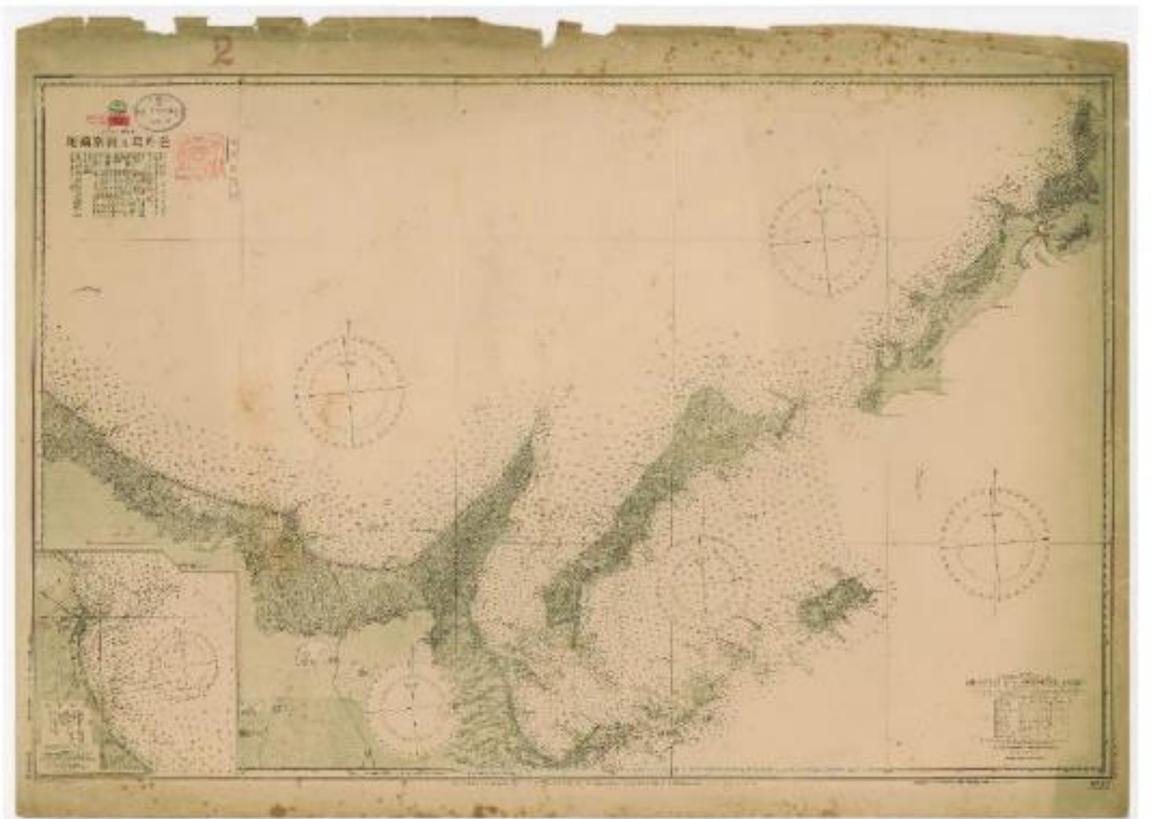


資料名	海図20号 択捉島諸分図第3(紗那湾、茂世路湾)(画像データ)
資料整理番号	b-6_00363
地域情報	択捉島 備考：
作成・発行時期	1928年6月20日／昭和3年6月20日
寄贈者/入手元	海上保安庁海洋情報部
資料の寸法 cm	55.9(H)×81.3(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	海上保安庁海洋情報部より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。 本海図は港泊図に分類される海図で、1905(明治38)年発行の海図第20号は1904(明治37)年測量の択捉島紗那湾のみ記載されたものであったのに対し、1928(昭和3)年発行された海図20号の本海図は1904(明治37年)測量の紗那湾に加え、1909(明治42)年測量の茂世路湾区域が併記され、意匠も縦長から横長へ、また、水深等の尺度も尋(1.8m)から米(1m)表記へ変更されている。茂世路湾は択捉島東端における大湾で、北角はラッキベツ岬で南東はセオロシ岬である。主な集落は茂世路で薬取の東約36Kmにあり太平洋に面す。1900(明治33)年に横浜の商人が硫黄採掘に着手したが、1903(明治36)年に廃坑となり漁家が数戸となった。北海道庁命令航路は根室間の運航はなかったが、函館との間は函館から薬取間や年蒔間の航路の寄港地になっていた。



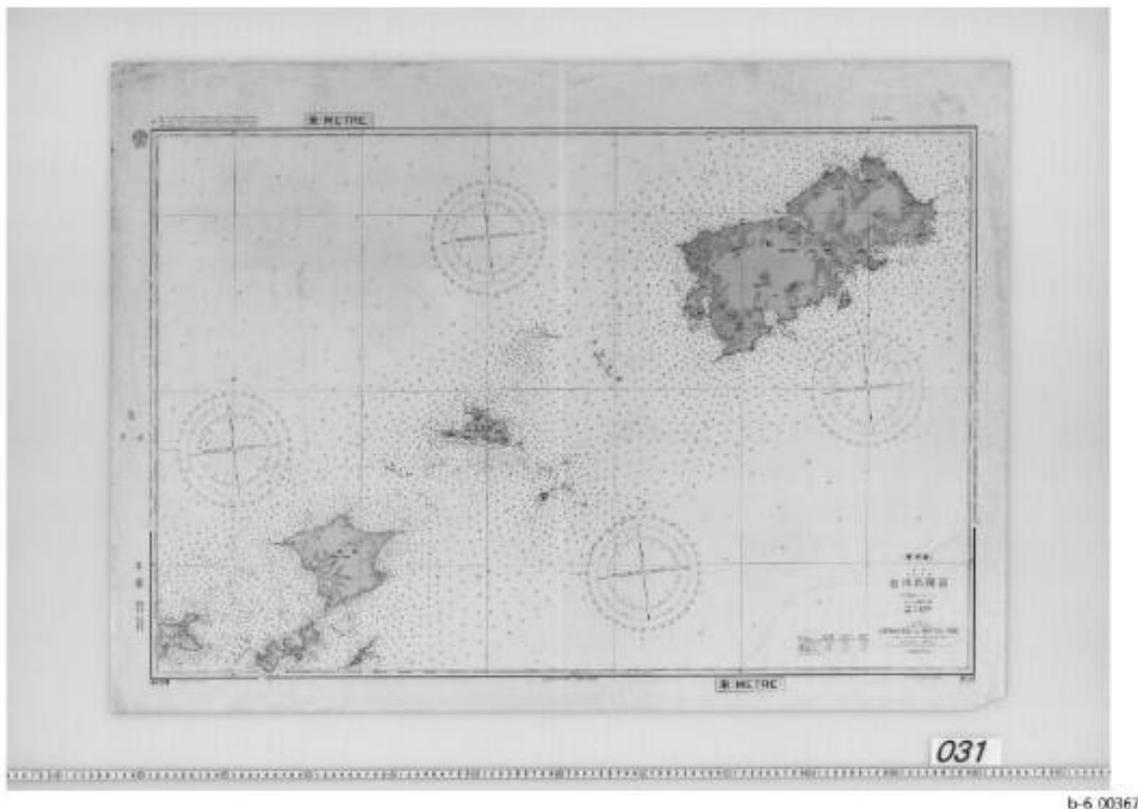
b-6_00365

資料名	海図34号 襟裳岬至色丹島(画像データ)
資料整理番号	b-6_00365
地域情報	色丹島 備考：
作成・発行時期	1905年5月18日／明治38年5月18日
寄贈者/入手元	外邦図アーカイブ
資料の寸法 cm	80.8(H)×112.3(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>外邦図アーカイブ(東北大学理学部地理学教室)より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。</p> <p>本海図は航海図に分類される海図で、陸地を視界に保って航行する場合に使用され、船位は陸上物標により決定出来るよう表現されているもの。1935(昭和10)年までの海軍水路部の測量データにより作成され、1937(昭和12)年に発行されたもの。水深等の尺度は米(1m)表記。本海図には北方四島のうち、歯舞群島、色丹島及び国後島の南西側の一部が記載されている。明治期から終戦までの間、千島までの航路として、北海道庁命令航路(概ね4月から12月)及び自由航路(漁業の盛漁期)として根室港と北方四島間で運航されていた。また、同様に函館からも北方四島間に命令航路と自由航路が運航されており、命令航路・自由航路とも主に択捉島の各所間を運航しており、明治から昭和初期にかけて、まだレーダー等の電波器機が開発されておらず、地文航法(陸地の物標から船位を測定)と天測航法(太陽や星の角度から船位を測定する法)を頼り、本海図等を使用し、襟裳岬から道東の沿岸を左舷に見て択捉島まで航行していた。</p>



b-6_00366

資料名	海図37号 色丹島至紋別錨地(画像データ)
資料整理番号	b-6_00366
地域情報	全島 備考：
作成・発行時期	1950年5月1日／明治38年5月1日
寄贈者/入手元	外邦図アーカイブ
資料の寸法 cm	78(H)×108(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>外邦図アーカイブ(東北大学理学部地理学教室)より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。</p> <p>本海図は航海図に分類される海図で、基本的には1886(明治19)年から1904(同37)年までの海軍水路部の測量データにより作成されているが、根室海峡及び網走湾は1905(明治38)年測量データ、網走湾以西は本海図左側下部「紋別錨地」を含め1906(明治39)に海軍水路部の測量に基づき改補され、1908(明治41)年に発行されている。また、細体の部分は海軍海図第三号「日本北洲附択捉島及国後島」より拡大している。紋別から根室までの北海道東部沿岸と国後島、色丹島、歯舞群島及び択捉島のほぼ南半分が記載されている。本海図からは1908(明治41)年時点において北方四島の国後島、色丹島、歯舞群島周辺海域と択捉島北岸海域(オホーツク海側沿岸)の一定の水深測量は完成していたことや沖合を航行する船舶の船位を確認する航路標識施設としての灯台が国後島南端のケラムイ埼、同島北端の安渡移矢岬に存在していたことがわかる。</p>



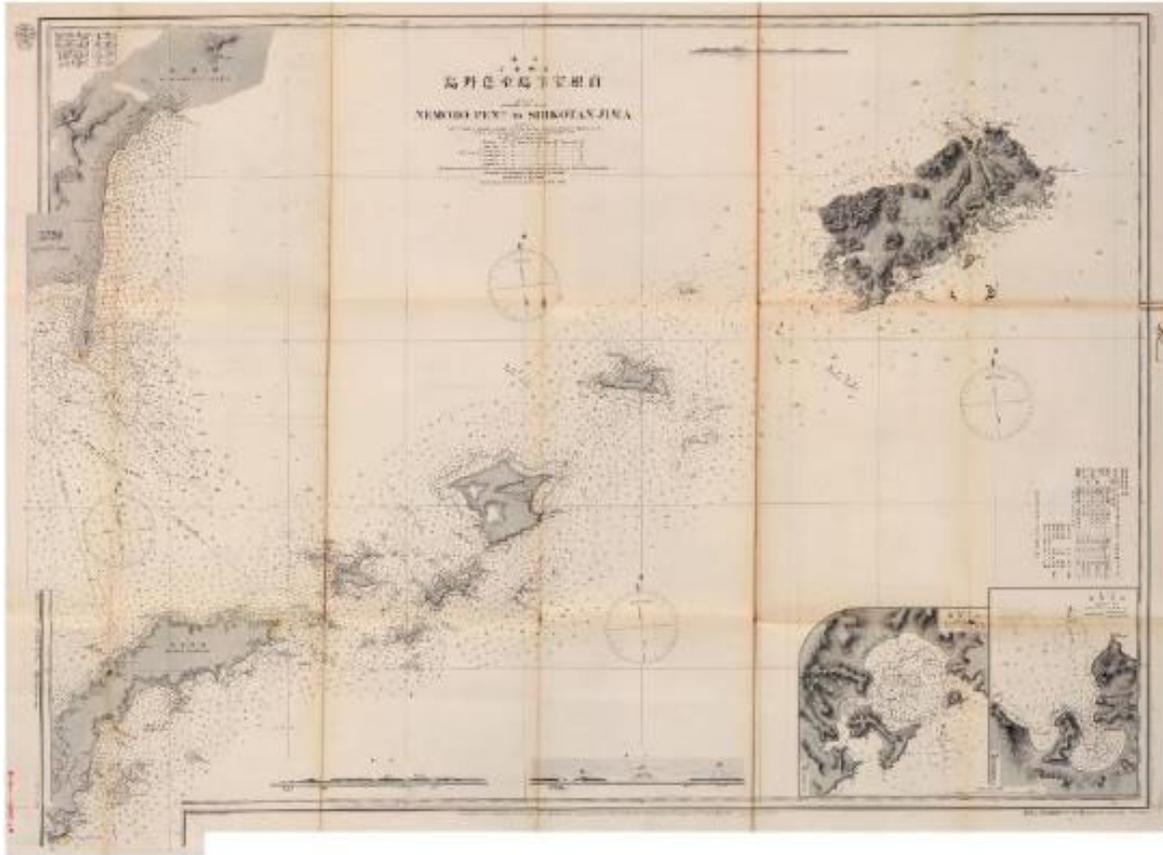
b-6_00367

資料名	海図38号 色丹島附近補測図(画像データ)
資料整理番号	b-6_00367
地域情報	色丹島 備考：
作成・発行時期	1925年9月18日／大正14年9月18日
寄贈者/入手元	海上保安庁海洋情報部
資料の寸法 cm	38.6(H)×53.3(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>海上保安庁海洋情報部より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。</p> <p>本海図は海岸図に分類される海図で沿岸航海に使用するもので、その沿岸の地形が細部にわたって詳しく描かれてあるもの。本海図は1923(大正12)年の海軍水路部による測量データにより作成され、1925(大正14)年に発行されている。色丹島と歯舞群島のうち、北から多楽島、志発島(海図上では志勃島と表記)、勇留島、春苺島及び水晶島一部(南北の西端が欠けている)が記載されている。根室半島から色丹島海域の海岸測量は1891(明治24)年に実施され以後の海図に反映されているが、1923(大正12)年に更に色丹島及び多楽島近海の海岸測量が実施され、より同海域海図の精度が高まっている。なお、海図内の情報は安全な航海を維持するため、常に最新の状態にする必要であり、都度、部分的に情報の訂正をする小改正が行われる。本海図には欄外左下部に小改正を実施した1931(昭和6)年と1932(同8)年の印字があることから、1925(大正14)年に発行された海図に小改正を追加して1932(昭和8)年以降発行された海図であるといえる。</p>



b-6_00369

資料名	海図93号 日本北洲附択捉島及国後島 (画像データ)
資料整理番号	b-6_00369
地域情報	択捉島 国後島 備考：
作成・発行時期	1892年9月28日／明治25年9月28日
寄贈者/入手元	海上保安庁海洋情報部
資料の寸法 cm	—
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	<p>海上保安庁海洋情報部より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。</p> <p>本海図は英国海軍海図第452号を基礎とし、1871(明治4)年海軍水路部の前身兵部省海軍部水路局の測量データに1886(明治19)年、1887(明治20)年の海軍水路部の測量データを元に作成され、1892(明治25)年に発行されたもの。北海道と北方四島、下北半島北端、樺太(サハリン)南端が記載されている。本海図には1887(明治20)年天龍艦乗船の水路部職員が洋上から実視した択捉島・国後島・色丹島の状況を書き取った図を掲載されている。各図にはAからFのアルファベットが付され、本海図上に示されている各Viewに対応している。</p> <p>本海図に掲載されている上から順にB図：ViewBから国後水道(北北西)方向、F図上段：ViewFから択捉島留別(南南西)方向、F図下段：ViewFから択捉島薬取岬(北東)方向、A図：ViewAから択捉島ベルタルベ岬(北東)方向、C図：ViewCから国後島と色丹島間(南西)方向。E図：ViewEから択捉島単冠山(西南西)方向、D図：ViewDから択捉島単冠山(北西)方向をそれぞれ実視した図となっている。</p>



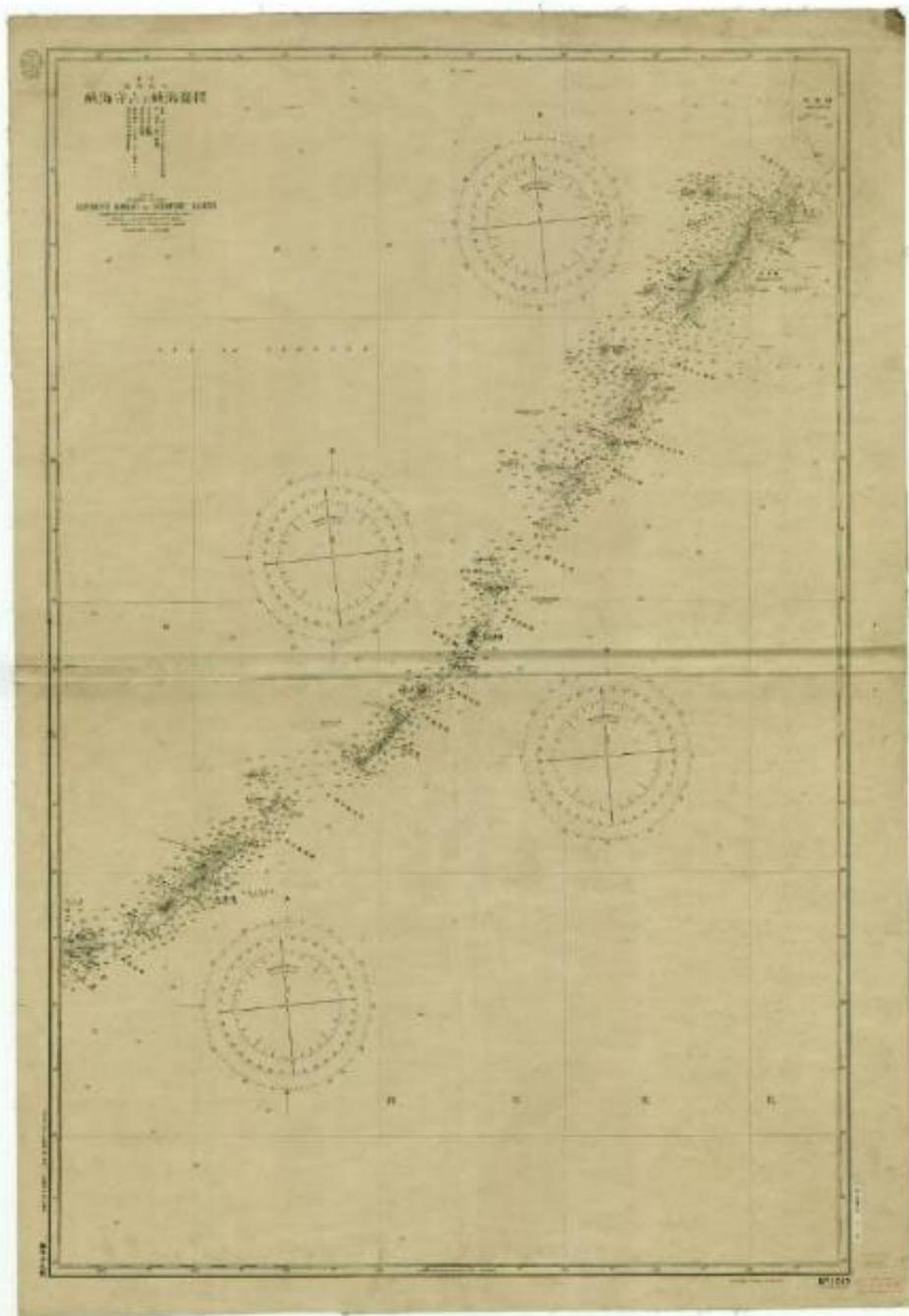
b-6_00370

資料名	海図235号 自根室半島至色丹島(画像データ)
資料整理番号	b-6_00370
地域情報	色丹島 歯舞群島 備考：
作成・発行時期	1892年11月15日／明治25年11月15日
寄贈者/入手元	海上保安庁海洋情報部
資料の寸法 cm	—
所蔵先	北方領土問題対策協会

備考

海上保安庁海洋情報部より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。

本海図は航海図に分類される海図である。1886(明治19)年、1887(明治20)年に海軍水路部により測量され、1888(明治21)年に発行された海図に1891(明治24)年に測量されたデータを加え大改正し1892(明治25)年に発行されたものである。本海図には色丹島、歯舞群島、国後島南部、根室半島が記載されているほか、別図として色丹島松ヶ浜湾と同島斜古丹湾が海図右下部に記載されている。また、洋上から実視した三箇所状況を書き取った図が掲載されている。本海図中央から左下部に記載の第一号は根室半島花咲港沖合のユルリ島・モユルリ島を北西に望む洋上から実視したもの。第二号は根室半島と水晶島の間を挟む瑤瑤水道の南方洋上から国後島羅白岳方面をほぼ北に実視したものであり、本海図の海図名の右側にある無番号の図は、色丹島北方洋上から南南西に色丹島を望んだものである。また、色丹島や別図記載の地勢の高低の描写は、細かい線で表す、当時の呼称で毛線式(毛羽式)であったが、簡明であり、時間と労力が節約出来るとし、1898(明治31)年以降、渦線式(地勢線式)が採用されている。



b-6_00371

資料名	海図1019号 擇捉海峡至占守海峡(画像データ)
資料整理番号	b-6_00371
地域情報	択捉島 その他 備考：
作成・発行時期	1919年3月15日／大正8年3月15日
寄贈者/入手元	海上保安庁海洋情報部
資料の寸法 cm	103.3(H)×72.1(W)
所蔵先	北方領土問題対策協会
備考	海上保安庁海洋情報部より画像データを申請のうえ取得。原則として成立順である海図号数順に掲載。 本海図は航海図に分類される海図である。1909(明治42)年から1917(大正6)年までの海軍水路部の測量データにより作成され、1919(大正8)年に発行されたもの。択捉島北端から、得撫郡(得撫島から武魯頓島)、新知郡(新知島から雷公計島)、占守郡(牟知列岩から占守島)の各島及びカムチャッカ半島北端が記載されている。これらの島々には古くは北千島アイヌが移動しながら居住していたが1884(明治17)年に色丹島に移住させられてからは無人状態であった。1893(明治26)年報効義会が占守島に移民。また、後年、北千島の占守島、幌筵島、阿頼度島には漁業関係会社が進出し、水産物の缶詰、塩蔵、冷凍、燻製、魚油等を製造し日本の重要産業となり、盛漁期には終戦時の北方四島の居住者を上回る1万8000人にのぼる富山・函館・東北地方からの漁夫・雑夫などの出稼人口があったといわれている。第2次大戦後、日本は北方四島を除く千島列島の権利等を放棄したが、これらの島々は日本の領土であった。